聖徒の道 5

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第9巻第5号　1965年5月1日発行

SEITO-NO-MICHI

聖徒の道 第9巻 第5号

1965年 5月号

目　次

大管長メッセージ …… 200
伝道部長メッセージ …… 202
大会説教 …… 204
西中央地方部大会 …… 212
支部だより …… 214
投稿 …… 218
アロン神権について …… 222
指導性について …… 225
東中央地方部大会 …… 230
民数記断想 …… 234
扶助協会会長メッセージ …… 238
主のもとにはたらく人々 …… 240
系図のページ …… 242
伝道本部だより …… 248
えいごのページ …… 251

＜横浜支部風景＞

大管長　テビド・〇・マッケイ

自己に忠実であることは容易なことではない、しかし私はあえていう、自己意志をあたえられた「神の子」らである人間は、誘惑の力がいかに大きくとも、最善と思うものを選ぶことが出来る。

大管長メッセージ

オークランド神殿献堂式の時の話

―― 時来らば …… ――

大管長
デビド・O・マッケイ

兄弟姉妹の皆さん、只今は神聖な時であります。そして私はこの美しい新らしい神殿で皆様にお逢い出来ました事を感謝して居ります。

皆様に歓迎の言葉を述べる前に私は少しばかり感謝の言葉を述べたいと思います。先づ私は天の父なる神に、ブリガム・ヤング大管長とウイラード・リチャーズ博士がホーン岬を廻って来たサムエル・ブラウン隊長に引卒されたカリフォルニヤの聖徒たちに書き送った〝やがて主の神殿から、太平洋岸を見渡す時が訪れるであろう〟と言う予言が文字通り成就したことを感謝致します。私たちは又その時、十二使徒会員であったジョージ・アルバート・スミス長老がサンフランシスコを訪れ、彼のホテルの部屋から東方を見つめていた時に、世界各国からこの黄金橋に入る船に対し恰も燈台のようにこの東湾の岡に神殿が建てられる幻を見たことを感謝致します。

その後十年、一九三四年私たちは会長ユージン・ヒルトン長老及び現在この神殿の管理会長であるデルバート・F・ライト長老及びA・B・グラハム長老三人の委員会がみたまに動かされて、この場所を選んだことに感謝致します。私たちはこの地がまだ売出されていなかった時に、しかも他の二つの場所が提供されたにもかかわらずこの委員会が特にこの場所を入手したいと言う希望を捨てなかったことを感謝致します。そして一九四一年、日本との戦争が始まった時、不動産仲買人であった、グラハム兄弟は委員会に、戦争の為に地主が分割して売ることが出来ず一括して十四・半エーカを一万八千弗で売ろうとしていると報告しました。もう亡くなってから久しいグラハム兄弟は、その時、個人の使用に買うのかと聞かれて、〝私は教会が優先的に買うことを欲しますがそれにしても早くせねばならない〟と答え、ヒルトン会長は〝私たちは郵便を待っていることが出来ないので直接、ソルト・レーク市に行こう〟と言いました。

一九四二年ヒーバー・J・グラント大管長は私に、その場所を見に、サンフランシスコに行くように命じました。私はその場所を見て非常に心がひかれ帰って、今は神殿の岡として知られるこの地を買うように勧めました。その後、困難な交渉を経て道路迄に絶

体に必要な二エーカーの追加分と、神殿周辺の数エーカーを入れ全部で十八・三エーカーの土地が遂に購入されたのでありました。

一九六一年一月二十三日に私は湾地域の十九のステーキ部長及び北部カリフォルニヤ伝道部長と逢い、大管長会と十二使徒会は一致してこの神殿の岡に神殿を建てることに決定しましたと発表しました。これらの兄弟たちから示めされました熱意ある反応に私は非常な感銘を受けました。

一九六二年の五月二十六日土曜日に私は、オークランドに帰り公式に鍬入れ式を行ないました。

一九六三年五月二十五日にジョセフ・フィールディング・スミス会長はこの壮厳な建物の礎石を置いたのであります。

そして今や、今日、〝やがて主の神殿から、太平洋を見渡す時が訪れるであろう〟と言う予言は文字通り成就したのであります。

私たちの心は先づ最初にこの神殿の場所を決めるように任命された三人に対し、次にオークランド神殿地区に組織されたこれらのステーキ部部長たちに感謝します。私たちは又すべての人々の神殿建設に対する献身的な奉仕に対し厚く感謝致します。子供たちはその小遣いを未亡人は貴重なお金を寄附したのであります。或ステーキ部に於てはこの神殿建設資金をつくっている時に什分の一が前年度よりも十パーセントも上ったのであります。オークランド神殿地区の会長O・レスリー・ストン兄弟は一九六三年二月五日附の手紙で〝私たちは今やオークランド神殿建設費の地方分担額五十万弗を少し超過する金額に達しました。これらの資金は現在管理監督会事務室に預けてあります。神殿が完成される前に私たちに実質的に私たちに割り当てられた以上に達成出来るように期待して居ります〟

私がこの神殿建設にたずさわってから最も感激しましたことはこの地区の人々の自発的に貢献した信仰と忠実さと献身さであります。私たちはこの建物を建てる為に誠実に良心的に働いたすべての人々、建築技師、請負業者、献堂する迄に長い間忠実に働いた作業者に感謝の意を表したいのであります。

私たちはこの献堂式に来られたすべての人を歓迎致します。これは誠に記念すべき出来事であります。そして今朝出席したすべての人はこの公開式典に参列することが出来ます。

私は又見えないけれども実際にここに参列している教会の使徒であり前大管長であった、死者に対する儀式の啓示された予言者ジョセフ・スミスを先頭にブリガム・ヤング大管長、テイラー大管長、ウッドラフ大管長、スノー大管長、ジョセフ・F・スミス大管長、グラント大管長及びジョージ・アルバートスミス大管長をも歓迎致します。これら著名な指導者と共に私たちはやはり見ることは出来ませんが身近に感ずる私たちに亡き肉親をも歓迎します。

私たちは天にいます私たちの父に、この栄えある主の家を完成させる為に努力した、すべての教会の会員又教会外の人たちの為に感謝の意を表する次第であります。

伝道部長メッセージ

ダワエン・エヌ・アンダーセン

この故に、今や神権者皆各々その義務を覚れ。また己が任命せられたる務めを全く勤勉に勤むべし。およそ怠惰なる者はその地位に居るに値せず、またその義務を覚らず信任さるるに足る行ないを示さざる者は、その地位にある値なき者なり。誠に然り、アーメン

（教義と聖約一〇七：九九―一〇〇）

神の王国の指導精神の鍵は貴方の義務を知ってそれを実行することであります。貴方が大音楽家の演奏を聞いて数年間も音楽を勉強しても実際に貴方の指をピアノにふれる迄は音曲を奏でることは出来ないのです。教会は単に指導精神又は指導力の原則を学べるだけでなく、その原則を実行する機会を備えているのであります。教会の中のすべての人が割り当を受けるべきであり又その割り当を遂行する権能と機会を与えられるべきであります。これが賢明な、地方部長及び支部長の指示下に指導力の培われて行く道であります。

リーグランド・リチャーズは曾て次のように言いました。教会の中で指導力を成功させるには三つの必要なことがあって、それは事業上に於ても、又他の如何なる方面に於ても同様であると思いま

す。これらの要求される必要事項は第一に、貴方の仕事の計画であり第二にその割り当てであり、第三にその割り当をチェックすることであります。リチャーズ兄弟が南部諸州伝道部長をしていた時に新車を買いました。彼はそれを或大事な教訓を示す為に彼が見つけることの出来る最も古い車の傍に駐車しました。それから彼は或宣教師たちを呼んでこの二つの車の相違は何であるかとたずねました。彼は多くの回答を得ましたが満足するものは一つもありませんでした。そこで彼は彼らに言いました。〝この二つの車の相違は何回かの審議会であります。若しもヘンリー・フォード（車の創造者）及び彼の技術者が旧式のTフォードが上等であると思ったら彼らは未だにそれを造るでしょう。けれども彼らは、もう少しそれを乗り易くすることが出来ると思いそうしました見てごらんなさい彼らは幾度かの審議会を開きました。そしてその結果はどうであったでしょうか。支部長会やその他の組織は効果ある審議会を何回か開くことによってその結果を改善することが出来るのであります。

審議会は計画がなされ、その割当がなされたのでなければ効果的ではありません。人々は割り当られ、それを遂行する権能を与えられねばなりません。最後の段階はその割り当をチェックすることであります。貴方は素晴らしい計画をしてそれを割り当てることが出来ます。けれども実際にその仕事がなされたかどうかを決定するものはその割り当のチェックであります。或日曜学校の会長が二分半の話に問題を生じました、ステーキ部の指導者がそれを調査した結果、その割り当はなされたけれども日曜学校の会長がそれをチェックしなかったことが発見されました。それですからあまりよく準備されなかったのであります。それが完成されるであろうかどうかを決定するものは割り当のチェックであります。

リチャーズ使徒によって述べられた成功する指導力の三つの要求の秘訣は個人的な接触であります。貴方が割り当をする時、個人的な接触しなさい。直接合ってする時、彼らはその割り当を理解し貴方の気持を感じるでしょう。貴方が割り当をチェックする時、個人的な接触を通して、しなさい。そうすれば、その効果は、もっと大きくなるでしょう。

神の王国の指導者たちは貴方の義務を学び正しい指導精神の根本原則を適用して、全力を尽して勤めなさい。

この大いなる民の間に神の目的が成就されるように神よりの貴方の召しを忠実に遂行されるようにお祈り致します。

モルモンの泉

「ごらん、ここにモルモンの泉がある。

あなたたちは神の羊の群に入って神の民と言われること、互いに苦難を軽くするために喜んで助け給うこと、悲しむ者を思いやって共に悲しむこと、慰めが要る者を慰めること、また神に贖われ第一の復活にあずかる者の数に入って永遠の生命を得るよう、いついかなる時でも、どのような所に居ても、どんなことについても、死に至るまでも神の証し人になりたいと心から思っている。従って、あなたたちがもしも真心からこれを望んでいるならば、あなたたちは主からますます豊かにそのみたまを賜るよう、主に仕えてその命令を守ると言う誓約を主に立てた証拠として主の御名によってバプテスマを受けるのに何のさしつかえがあろうか」

《大会説教》

私は真に知ることが出来るでしょうか

十二使徒会補助
ボイド・ケー・パーカー

先日教会の一人の代表者が西海岸の大都市行きの飛行機に乗っていましたが若い一人の弁護士と会話しました。彼らの会話は、新聞の第一面に公然と載せてある大衆向きのみにくい絵や又悲惨な写真や記事に集中しました。

弁護士は新聞は人間社会をよく表現するもので人生は、あわれでありはかなく意味ないものであると言いました。長老はこれに反対して、人生は目的があり、それは神がその子供を愛して与えたものであり真に人生はよいものであると言いました。

弁護士は伝道師と話していることに気がついて、あらためてむきなおって言いました。

〝あと一時間と二十分しかありませんが、貴方たちは何の根拠があって世界をうろつき廻って、神は実在し人生は真に意義あるものだと説くのですか？〟

彼は自分が無神論者であると告白し、その無信心を強く述べまくったので長老は遂に〝友よ、貴方は間違っています。神は実在し生きています。私は神が生きていることを知っています〟と宣言しました。更にこの弁護士は、イエスがキリストであるという熱烈な長老の証をも聞きました。けれどもその証は疑いの耳を持った彼には効果がありませんでした。〝貴方はわからない筈だ、誰もわかっていないのだから〟長老はそれでもあきらめませんでした。弁護士は遂に腰を低くして

〝よろしい、若しも貴方が知って居られると言われるなら（そのようにスマートであるならという顔つきで）どうして知ったか話して下さい〟と言いました。

長老は上細に進む時筆記又は口頭の試験でこのような質問に直面したことがありましたが、このように切実に問いただされたことはありませんでした。

これは教会のすべての会員に対するチャレンジでありますので私は特にこの事件を取上げるのです。このチャレンジは特に私たちの若い人にとって障碍となるのであります。彼らは皮肉な懐疑論者たちに彼らが子供っぽい信仰を持っていることを学者ぶったけいべつさで見られる時にジレンマに陥るのです。そのようなチャレンジの前に彼らの前に彼らの多くの者が、その質問に答えられずして当惑し、恥じて去って行ってしまうのです。

この私たちの兄弟はこの質問に答えて、〝聖霊が私に証します〟と申しましたがその弁護士が〝私は貴方が何を言っているのかわからない〟と言った時、彼はこの弁護士とどうにも通じようのないことを知りました。

〝祈り〟〝洞察力〟及び〝信仰〟などと言う言葉は弁護士にとって無意味であったのです。何となればそれは彼にとって経験外のことでありましたから。

〝見給え、貴方はほんとに知っていないんだ。若しも貴方がほんとに知っているなら私に告げられる筈だ〟これは私たちが知っていることは何でも言葉で説明出来ると暗に示しているのです。

けれどもパウロは言いました。

〝ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって神から賜った恵みを悟るためである。

この賜物について語るにも、わたしたちは人間の知恵が教える言葉を用いないで、御霊の教える言葉を用い、霊によって霊のことを解釈するのである。

生れながらの人は、神の御霊の賜物を受け入れない。それは彼には愚かなものだからである。また御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない〟

（コリント前書：二一二―一四）

長老は自分の証しする方法のまずかったことに感ずいて、心の中でこの若い弁護士がその言葉を理解するように少くとも、その誠意を感じてくれるように祈りました。

〝すべての知識は言葉のみによって伝えられるものではありません〟と言ってそれから彼は弁護士にたずねました。〝貴方は塩がどんな味がするか知っていますか？〟と

〝勿論知っていますよ〟と答えられました。

〝いつ貴方は塩を味いましたか〟

〝今しがた飛行機の食事で味ったばかりでありませんか〟

〝貴方は塩がどんな味がするか知っていると思っているだけです〟

〝私は他の何でも知っているのと同様に塩がどんな味がするかを知って居ります〟と弁護士が答えました。

〝若しも私が塩一コップと砂糖一コップを貴方に与えたら貴方はその味の相違を告げれますか〟

〝子供らしいことをおっしゃいますね、勿論告げられますよ、私は毎日経験しているから、他の知っているすべてのことと同様によく知っていますよ〟

そこで長老はもう少しおたずねしますがと言って〝若し私が塩を味ったことがなかったとしたら貴方はそれがどんな味であるかを私に説明出来ますか〟

しばらく考えてから弁護士は敢て口を開き〝そうだね……そ……それは甘くもなく、酸っぱくもなく〟

〝貴方はそれはどんな味であると答えずどんな味でないと答えています〟

何とか言いきろうと試みた後、この弁護士はこのように一般的な知識でも言葉で伝えることに実際に失敗したことを認めました。彼は長老が彼の質問に答えた時と同様に、どうすることも出来ない彼自身を見出したのでありました。

終点に到着して別れる時に長老は再び証して言いました。

〝私は神が実在することを知っていると主張します。貴方はその証をあざ笑って若しも私が知っているなら、私ははっきりと私の知っていることを貴方に告げられるだろうと言いました。

私の友よ、霊的に言って私は塩を味わったのです。貴方が塩がどんな味がするか私に告げようと試みた以上に私はこの知識がどうして、もたらされたか言葉で伝えることは出来ません。けれども私は再び言います。神は実在します。神は生きています。そして兄貴方が知らない理由だけで私に知らないと言わせようとしないで下さい。何となれば私は知っていますから〟

若い皆さん、貴方が心に真実であると知っていることを言葉に形成出来なくとも、すまなく思ったり恥じたりしないで下さい。貴方が単に素晴らしい説得が出来なかったからとて証をすてないで下さい。

リーハイは彼の夢の中で〝実を食べた者〟が〝人たちにあざけり笑われたので心に恥しく思い禁制の道に踏み迷って姿を消してしまった〟のを見ました（ニーファイ第一書八：二八）

私たちは皆さんが真理を守ることの如何に困難であるかを知って同情して居ります。特に世俗的な知識の教授たちが、その或者はクリスチャンを装っていますが正体を暴露して嘲笑する時など如何に堪え難いかをお察し致します。私たちは個人的な経験から貴方たちが或疑いを持つかも知れないことを知っています。皆さんは時には〝私は確かに知ることが出来たであろうか？〟とつぶやくことがあるかも知れません。更に〝誰か、ほんとに確かに知っているのだろうか？〟と思うかも知れません。

デビド・O・マッケイ大管長は曾て彼が若い時に証を探求したことに就て語りました。〝私は若い時にこの仕事の神性さに就ての証を得ることが最も大切なことであると覚ってそれを渇望しました〟

彼はその証は何か大きな霊的な顕現がもたらされるのであろうと考えていたのです。彼は更に話を続けました。

〝私は或日の午後馬に乗って丘の上を進みながらこのことを考えていました。そしてこの静かな丘がその証を得るのに最もよい場所であると考え馬を止めて手綱を馬の頭に投げかけ……跪いて全心を傾けて、この福音の証を神に求めました。私は私が或変化を来たして疑問が消失する何かのあらわれ（顕現）があるであろうと考えていました。

私は立上り手綱をとって馬を進めながら自分自身をふりかえって不本意に頭をふって、つぶやきました。

〝いえ、何も変っていません。私は跪く前と同じ少年に過ぎません〟更にマッケイ大管長は続けて言って居ります。

〝期待した顕現は来ませんでした。そしてそれはその時だけではなかったのであります。しかしながらそれは来たのです。けれどもそれは私が期待していたような方法ではなかったのであります。神の力の顕現、又は天使の現れではなかったのです。そしてそれが来た時、それは単なる確認であり顕現の証ではなかったのであります。

皆さんの〝私はほんとに確かに知ることが出来たであろうか〟と言う質問に答えて私たちは皆さんが満足するように〝証は来ます〟とお答え致します。

主は決して、この証が単なる好奇心からの科学的な探求又は学究的な質問に答えるであろうと言われたこともなく又そのように見せかけられたこともないのです。

〝誰か、ほんとに確かに知っているのだろうか〟と言う皆さんの質問に対し〝はい数千、数万の人が知っています。兄弟たちが知っています。貴方の両親が知っていますとお答えします。

私は真理を尊んで居ります。それを偽造したり捏造したり、誤らせたりすることはよくありません。

又他方に於て人が証を受け、それを証するように言われた時、それを控え目に最小限にすることもよくありません。その場に臨んで私は強く証するように迫られます。そして私はイエスがキリストであることをおごそかに証します。私はイエスがキリストであること。イエス・キリストの福音は神の予言者ジョセフ・スミスに包復されたこと、この教会を管理しているデビド・O・マッケイは神の予言者であることを知って居ります。イエス・キリストの御名を通してアーメン。

大会説教

霊の大切さ

十二使徒
ゴールドン・B・ヒンクレイ

愛する兄弟姉妹の皆さん、この壇上から皆さんにお話することは如何に大きな特権であり又如何に重大な責任でありましょうか。私は心から聖霊の授けを求める次第であります。

先日私は我が国の大きな大学の一つの校庭を散歩しました。私は壮大な建物や清潔な研究所や教授舞台や堂々たる図書館や寄宿舎や体育館などに印象づけられました。けれども私は学生たちにもっと印象ずけられました。一万七千名以上の若く美しいまじめで熱心な男女が集っていました。これらの人たちはこの秋に帰校した何千万の学生の一部でありました。私は彼らが代表している偉大な知識の力に畏れをいだきました。この世で曾てこのように大勢の人が学問を受けたことはありませんでした。

これは何と素晴らしいことでありましょうか？　国の若人の多数が毎日有能な教授の許に集って集約的教育を受け、人類のあらゆる時代の知識を貯えているのです。その知識の範囲は実に驚くべきものがあります。それは宇宙の星、地球の地質、民族の歴史、人類の文化、言語、政治、商法、原子力、肉体の機能、心の不可思議などを包含して居ります。

そのように多く得られる知識に人はこの世は殆ど完成の状態に近いのではなかろうかと思うかも知れません。けれどもその反面私たちは常に数千万の人々に不幸をもたらす、社会悪、闘争、問題

に気がつきます。

日々私たちは人生というものは科学や数学或は歴史や文学以上のものであるという事実を覚らされます。ここに他の或教育が必要でそれなくしては世の学問の実体は只破壊的方向にのみ、導かれ得るのであります。私はそれを心の教育又は良心の教育と申しましようこの定義出来ない私たちの人格の面が私たちの存在を又個人的な対人関係をはっきりと定めるのであります。そこで私は教会の内外の若い人たちと又アメリカの或は外国の若人たちに話したいのであります。

三十年程前私がロンドンに居ました時に、ロンドン中央ＹＭＣＡに加入して居りました。私はもうその旧い建物は崩されたと思いますがその玄関に入る度に目に入ったソロモンの言葉〝あなたが何を得るにしても、悟りを得よ〟を忘れることは出来ません。私はそれを皆さん方に推奨します。

何を悟るのでしょう？　私たち自身を、人生の目的を、私たちの父なる神に対する関係を、又幾世紀にも亘って人類の真の進歩をもたらした偉大なる神より与えられた諸原則を、悟るのであります。

私はそれらすべてを論ずることは出来ません。けれども三つの点を提案したいと思います。私はそれを説教すると言う気持でなく、招待する心で提供したいのであります。どうぞこれらを貴方の尨大な世の学問に加えて、その上に生産的な、多くの実を結ぶ幸福な生涯を築く礎石として下さい。

第一に私が指摘したいのは感謝であります。第二は貞節であり第三は信仰であります。この他にも挙げられると思いますが私はこれらが神の子が完全に成長する為の根本的なものであると信じます。

主は啓示を通して宣言されました。〝すべての事に就きて、主なる汝の神に感謝すべし……およそ人何事にも神を怒らせず、または何事にも神の怒り燃ゆることなし、ただすべての事の中に神の御手のあることを告白せず、その誡に従わざる者に神の怒りあり。……〟

（教義と聖約五九：七、二一）

私たちの社会にはあまりにも恵まれた人々の浅はかな高ぶりの気持によって害われて居ります。私たちは私たちが楽しんでいる日常のこの豊富な恵みに対し如何に感謝すべきでありましようか。感謝の気持がないということは教養のない狭い心のしるしであります。それは知識の欠如と、自惚れのおろかさを表示して居ります。それは醜い利己主義を現わし気儘な害毒を流すものであります。最近海岸や公園や森などで若い人たちが塵屑をみっともなく散乱させているのを見かけます。彼らの大部分が大学生たちですが明らかに、美に対する感謝の気持がないのであります。遂最近、私は火災で黒く焦土と化した数千エーカーの地帯をドライブして来ましたがこれは明らかに不注意な喫煙者が一本のシガレットから利己的な満足を得ようとしたことから起ったことであります。

感謝の気持を持っている人は丁寧であり、他人の権利と財産を尊重します。感謝の念がないと尊大となり悪となります。感謝の念のある処には謙遜さが伴います。それは高慢の反対であります。私たちは何と豊かに祝福されていることでしょうか。私たちは如何に感謝すべきでありましようか。カナダローヤルバンクの最近の公報に世界の恵まれない民の事に就て書かれてありましたがその一節に、〝北米の人々にとって未開の国々の人の窮状を理解することは困難である。何となれば私たちは空腹を経験したことがない。ここでは

誰も飢え死にしない。その他の処では十五億以上の人々が毎夜、空腹をかかえて床に入っているのである。実際にこれら未開の国々の人々は百人中殆ど一人も北米の家族が正食だと考えているような食事をその生涯を通じて一度も口にすることがないのである。

これに思い比べる時、皆さん若人たちは、その豊かな恵みに対し跪いて主に感謝すべきではないでしょうか。生活上の豊かな恵みに対し又貴方が楽しんでいる素晴らしい賜と特権に対する感謝の気持を培いなさい。主は曾て言われました。〝柔和な人たちは……地を受けつぐであろう〟（マタイ伝五：五参照）

私は柔和さというものは自惚れに対立する感謝の気持に相当するものであると解釈せざるを得ません。それは自分よりも遙かに偉大な神を認めその誡命を受け入れるものであります。これは知恵の始めであります。

〝汝須らく謙遜なれ、さらば主なる汝の神は手を取りて汝を導き汝の祈りに応えん〟（教義と聖約一一二：一〇）

生命を授け、すべてのよい賜物を賜わるお方の前に感謝して歩みなさい。

感謝に結びついているものは貞節であります。私が思いますのに貞節でない者は人生に対する感謝の念に欠けて居ります。そしてその目的、又幸福さに対する感謝の念及び他人の福祉に対する考慮が足らないのであります。

我が国の大きな国家的雑誌の一つが最近次のように言って居ります。〝私たちは昔の道徳がすたれたのを認めます。確立されていた道徳的な指標が私たちの手から退去してしまったのです。私たちは金銭欲と性欲にとりつかれた大都会的な社会にのたうち廻っているのです。私たちは如何にして伝統的な道徳的原則を私たちの今日の問題に適用すべきか、私たち自身の為に考えねばなりません。多くの者がこの負担が重すぎることに気がついて居ります。（ルック誌一九六三年九月号七四頁）

それは重いと言っても、この伝統的な道徳の原則を今日に適用する方法はあります。どういう理由かわかりませんが昔は貞節を守ることは容易であったが今日は困難であると云う偽った、合理主義者がよく現われます。私は創世の始めから、今は作用している力が作用しなかった時代はなかったことを皆さんに思い起させたいのです。エジプトのヨセフにポテパロの妻が言寄ったことは今日多くの青年男女が直面していることと本質的に異なって居りません。

今日の方がその作用は、もっと公然と誘惑的であります。けれども強制的ではありません。貴方方は、これらの影響から完全に防禦されることは出来ないのです。彼らはすべて私たちを取囲んでいるのであります。私たちの文化は彼らに浸されているのです。けれどもヨセフが実行したと同様の自律心が同様のよい結果をもたらすのであります。所謂、新道徳観、或は又多く論ぜられる。今日に於ける道徳標準の変化の議論にかかわらず貞節に代るに足るだけのものはないのであります。旧い標準はアメリカの又ヨーロッパのすべての大学で挑戦されて居ります。けれども神は決してその誡命を廃棄してはいないのであります。

今日に於ても又何時の世に於ても、これらの誡命を破ることは只遺憾となり悲しみとなり自尊心を失い、多くの場合に悲劇となるのであります。

合理化したり或はあいまいにしたりする言葉は、かけがえのない

貞節を持つ若い人の自尊心を傷つけるような傷の跡を拭い消すことはないのであります。弁解は決して性道徳の悲劇に漂流する女性の心を癒してはくれないのであります。

一九四二年の四月に大管長会はメッセージを発し、それはこの壇上から読まれました。それは聖句の口調をおびて居ります。私は皆さんに推奨致します。

〝教会の若い皆さん、何にもまして私たちは皆さんが清い生活をされるように訴えます。不潔な生活は唯苦しみと、あわれさと肉体上の禍を招くだけであります。そして霊的にそれは破滅への道であります。清潔な若人は何と栄光に輝き天使に近いことでしょうか。この若人はこの世で表現出来ない喜びを持ち来世に於て永遠の幸福を持つでありましょう。

（イムプルーブメント・エラ　四五：二七三）

私は先日某大学の校庭で数千、数万の美しい若い男女学生を見ていた時に、このことを考えました。そして聖文から次の金言を思い起しました。〝……戒めはともしびである。教は光である〟（箴言　六：二三）

素晴らしく約束され、しかも偉大なる才能を持った若人の皆さん、決して神を嘲弄してはなりません。彼の律法を侮辱してはなりません。貞節を貴方の生活の礎石として下さい。

次に私は信仰に移り度いと思います。私は抽象的に言うのでなく生きたものとして、神を私たちの父として又イエス・キリストを私たちの救主いとして認める決定的な力を申すのであります。私たちがこの根本的な前提を受け入れる時彼らの教えを受け入れ、それに従うでありましょう。そうすればこの世に於て平和と喜びがもたらされ、来世に於ては最高の日の栄に高められるでありましょう。

私はこれを神学的な平凡な言葉として述べているのではありません。人生の事実として申し上げているのです。それは目的ある人生の源泉そのものとなります。皆さんが宇宙の創造者、神の子であり、皆さんにその生涯を通じて何事かを為すことを期待し、若しその援けを求めれば援けて下さる全知全能の天父の子であることを知りたく思う程、刺戟されることがあるでしょうか。

この素晴らしい大学時代は学ぶ時であります。イエスは言われました。〝……私に学びなさい。……わたしのくびきは負いやすくわたしの荷は軽いからである〟マタイ伝（一一：二九―三〇）

私は皆さんが神のこの命令に従うように提案します。全心を傾けて彼に学びなさい。貴方のすべての勉学を以て主の知識を求めなさい。その知識は貴方の受ける世の学問を補強し、貴方の人生と人格を他の方法を以ては成就されない豊富なものとなすでありましょう。

数年前私たちは、ホノルルとロスアンゼルスの間を飛んで居りました。その時はまだプロペラの飛行機しかない時でありました。その途中で一つのモーターが停止しました。スピードが落ちて、だんだんと降下して行きました。搭乗者たちは神経をいら立たせました。その実状は力の大部分が失われて危険が増大して行ったに過ぎなかったのであります。その力なくして私たちは高く、速く、安全に飛ぶことが出来ないのであります。私たちの生活に於ても信仰の必要を考えず主の知識を無視する時、同様の結果となります。

消極的な受け入れ方では不充分であります。躍動する証は熱心に追求することによって、もたらされるのであります。主の道に従っ

て奉仕することによって力が湧いて来るのであります。〝私に学びなさい〟はイエスの命令であります。彼は更に御父の御意を行なっていることを宣言して居ります。〝神のみこころを行なおうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう〟

（ヨハネ伝　七：一七）

ですから貴方が数学及び物理、化学の書を読む時に新約聖書も又読みなさい。そしてユダヤ人と異邦人とにイエスはキリストであることを確信させる新世界の聖典、モルモン経も読みなさい。

私は世の中を遍歴して多く苦しみ豊かな知恵を得た昔の賢者の言葉を皆さんにお伝えしたいと思います。その人に就てはハンター兄弟が本日雄弁に語りました。その言葉はパウロがローマの獄中からテモテに書き送ったものであります。若い愛する友に彼は言いました。〝……神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。だからあなたは、わたしたちの主のあかしをすることを、決して恥ずかしく思ってはならない。（テモテ後者一：七―八）

青年男女の皆さんに私はこの心を振起す命令を推奨します。これが世界を革新する処の霊であります。

私は国際連合総会の前議長、チャールス、マリク氏の言葉に強い印象を受けました。彼は次のように言いました。

〝この恐るべき時代には、貴方自身が幸福であり、栄えて居り安全であると言うだけでは不充分であります。又他人に向って私たちを見てごらんなさい。幸福そうでしょう。私たちに見ならいさえすれば貴方は幸福になりますよ、と言うだけでは不充分であります。この恐ろしい時代には貴方は貴方自身にとじこもらず他人にメッセージを伝えるべきであります、貴方は何か人生の根本的な観念、或は態度を示しそれがすべての環境にある人を適切に動かすものでなければなりません。（成功する指導精神五頁）

私の声の届く限りに居るすべての若い男女の人に私は呼びかけます。主の御名を貴方の身に帯び、信仰を持って行き人々を正しく導き教え世界に平和と喜びをもたらしなさい。今の世が必要としているのは立上って真面目にあいまいな口調でなくはっきりと神は生き給いイエスはキリストであることを宣言する学問と力を持った世代であります。ですから愛する若人の皆さん、私は心から皆さんが世の学問をする時に、貴方の生活にもう一つの大切なものを加えなさい。霊を培いなさい。神は彼からのみ、もたらされる平和を以て、又他人に分つことによってのみもたらされる成長を以て、又最も貴重な貴方の信仰を以て貴方を祝福します。私は祈りを以てイエス・キリストの名によって、この仕事の神性なることの私の証を皆さんに与えます。アーメン

佐藤竜猪兄弟は非常にお元気でハワイ神殿のお仕事を一通り終えられて、ソレト・レークに行かれ四月の大会に出席されてデビド・O・マッケイ大管長に親しく面接され又スミス大祝福師の祝福を受けられ、その後系図協会の方でお手伝をされて居ります。ソレト・レークに着かれた時、一九四六年竜猪兄弟がバプテスマを受けられた頃最初に福音を伝えられた当時の兵隊さんで今は十二使徒会補助のボイド・K・パーカー長老及びC・エリオット・リチャード博士が喜び迎えられました御様子がチャーチニュースに報ぜられて居るので来月号に載せたいと思って居ります。

西中央地方部

大会開かる

二月六、七日は広島、環衛ビルで、三月六七日は大阪、中小企業文化会館で、それぞれ有意義な地区大会が開かれました。この夏にハワイ神殿訪問計画がなされていますが、今回の大会はその事もありまして、系図がテーマ（ペテロ第一の手紙、四章六節）になりました。若い人、最近改宗された方々には少し理解しにくいお話しがあったかも知れませんが、私達が今こうしてモルモンの生活が出来るのもお父さん、お母さんがあってこそ、おじいさん、おばあさん、そして沢山の先祖があってこそ出来るという事が良く理解出来ました。私達の先祖の方々の救いに関するお話しを聞き、又気持を新たに持つ事が出来、やはり大会に出席して本当に良かったと思っています。両大会（広島、大阪）を通じて確かに良い雰囲気の中に自分があった事を強く感じています。

広島地区のＭＩＡ大会はダンスの集いで大いに親睦がなされました。少しせまい会場でしたが皆が楽しく踊る事が出来ました。大阪地区でのＭＩＡ大会も本当にすばらしい大会でした。“窓”というテーマによるプログラムで、窓の由来を研究発表をしている支部、病院の窓ごしに見る街角の様子を表現する支

部、窓を通してＭＩＡのダンスクラスの活動を紹介したり、各支部の持っているタレントを大いに生かした味わいのある大会になりました。

両地区の一般大会もすばらしい大会として終える事が出来ました。今大会に於て多くの大神権者の誕生がありましたのは地方部として、各支部にとって本当に喜ばしい事でした。大会ごとにアンダーセン伝道部長さんの満足した顔を見る事が出来ます。それは最近何時も大会に参加する長老職の兄弟が全時間宣教師より多いからだと思います。大会ごとにこの日本にもステーキ部が出来るのはもうそんなに遠い将来の事ではないという強い気持になります。

アロン神権者、及びまだ神権を保持していない兄弟達よ！

よく努力するならば一年後には貴方は長老の職を保持しているでしょう。

モルモンのすばらしい姉妹達よ！

貴方の助けによって多くの大神権者が誕生するでしょう。どうぞ宜敷く。

一般大会（大阪）に於て六十何枚かのファミリー・グループ・シートを提出されている阿倍野支部の国島真理子姉妹の力強い証詞を中心としたお話を聞く事が出来ましたのも喜ばしい事でした。又伝道部長さんの御子息のアンダーセン兄弟のお話しを聞く事が出来まして感謝しています。ダワエン・Ｎ・アンダーセン伝道部長さんのミッドル・ネームの〝Ｎ〟の系図に関係する由来を聞く機会があって本当に良かった。そして今大会の両地区に於ける証詞は大きな収獲がありました。本当に多くの兄弟と姉妹（大会参加者の二〇％五分の一もの）の証詞は力強くすばらしいものだった。もっと沢山の時間がありましたらまだまだもっと多くの方が証詞をされた事でしょう。こうして二つの地区大会は無事終る事が出来ました。

最後になりましたけれど遠い支部から参加して下さいました兄弟、姉妹、本当にご苦労さまでした。また次の大会で会いましょう。

（地方部書記、記）

〈大会風景〉

旭川支部

全国の兄弟姉妹今日は、旭川からお便りします。一時は零下二十五度までにも下った旭川の寒さも三月の声を聞くといくらかゆるんだようです。そして教会堂の中にも何となく暖かい空気が流れて会員達も行動しやすくなり、また、あらためて新年を迎えるような気持で春のおとずれを待っております。

三月三日、何の日か御存知ですか？いわずと知れた〝女の子の日〟おひなまつりですね。この日は、いつもいばっている兄弟も完全に姉妹の前にお辞儀したような形になりました。

なぜなら、この日三月三日に扶助協会主催でひなまつりパーティーが開かれたからです。けれども三月三日のお人形は必ずつがいになっております。お内裏様だけでなく親王様も必要ですし、姉妹だけが楽しむのでは親王様である兄弟に悪いですから、手の空いている兄弟を少々お借りしました。（どうでしょう、この態度！）

出席人数は五十名位で、日本情緒たっぷりなこの集会は、神野姉妹の見事な日本舞踊で始められ、日本に来て間もないある宣教師は、もちろん和服は始めてなので、写真を取ろうと思ってあわてるのはいいのですが、あでやかなふりそでと、おしとやかな手ぶり足ぶりが目ざわりらしく、しばしお口をあんぐり。

その後、黒のムードとしゃれこんで黒装束に身を包んだ三人の姉妹のコーラス。お話を作るのがとても上手な姉妹より私達大人にも大変良い教訓となる童話を発表していただいたり、たぶん北海道地方部でただ一つしかないと思いますが、音楽の好きな若い兄弟達が集まって楽団（？）を組織しております。そしてこの日も、最愛のお内裏様（姉妹達）のためにご自慢の腕を披露して下さいました。

三月七日、今度は姉妹達は一歩身を引いて兄弟を前に出しました。

なぜなら旭川支部で大変活発に働いて下さっていた木谷兄弟が今度、建築宣教師として召される事になり、この日は木谷兄弟の壮行の意味をこめて証詞会を開いたからです。

木谷兄弟自身はもちろんですが旭川支部としても又、彼を取りまく兄弟姉妹一人一人にとっても大変喜ばしく名誉ある事と思います。彼自身も大変活発なのですが彼の家族の方々もモルモンではありませんが、大変理解があり、すばらしい事だと思います。彼に刺激されて、この後続いて兄弟達が建築宣教師

に、あるいは専任宣教師にどんどん召されると良いです。

という訳でこの日ばかりは姉妹達は兄弟に頭が上がらずザンネンでしたけれど木谷兄弟にはお互いに心からのそして本当に強い証詞をプレゼントしました。

ではみなさんこの次までさようなら。

聖徒の道投稿委員　田中静穂

小樽支部

〝氷とけさり、あしはつのぐむ、さては時ぞと思うあやにく、今日もきのうも雪の空、今日もきのうも雪の空〟この歌の文句と同じで小樽は三月に入ってからもずっと寒い日が続いております。どちらの支部も三月四月は離れ行く兄弟姉妹も多い事と思います。私たちも良き神権者等をまたも送り出す事になり残念でなりません、しかしそれぞれの支部で大きく成長し発展して下さる様祈って、残っている者は、いっそう努力し頑張ろうと心に強く言いきかせています。

小林毅兄弟―東京東支部
畑中陽天兄弟―横浜支部
池端行夫兄弟―東京北部
小笠原静代姉妹―名古屋支部
宣教師―ウェスト長老、アシア長老、ライマン長老、ジョンストン長老

新しく組織された支部長会、支部長を増田輝敏兄弟、第一ウエスト長老、第二藤田烈兄弟、書記アシア長老。

今日は子供の日曜学校の事を少し紹介しましょう。

朝九時から始まる子供たちの会、時には先生たちより生徒たちの方が早く、明るい元気な声が会堂に広がり、一日の活気が湧きあがります。大・中・小と三つのクラスに別れ、バラ、すみれ、チューリップの花が教室の前にはられ、開会されます。子供達の数は、二〇余名、残念な事には、小樽はモルモンの家庭がないので、その二〇数名の中に、一人もモルモンの子供が居ないと云う事、しかし、子供達は、出席カードに色とりどりの星型の印をつけてもらえるのを心待に、聖句拝読、お祈り、お話しと、責任にも大はしゃぎ、深い雪の中をこいでやって来ます。そして若い先生たちの張り切りようもこれまた見ていても楽しくなるくらい。時々、自分のクラスの子供がどうこうとほめ合っている内に声が高くなる事もあるようです。

小さな子供が祈る時、またお話しをする時、神聖な、美しい気持に誰れでも成る事が出来るでしょう。そして時々その中から教えを受けます。これから期待される事は、もっともっと大勢の子供達が集まり、次の世に向う子等が良き神権者として、また良き姉妹としてりっぱに成長してくれる事と、モルモンの子供達の良き成長の場になる様祈る事です奥田節子姉妹を責任者に、若い教師の方々が頑っている事も楽しい知らせです。　M記

室蘭支部

愛する兄弟姉妹御元気ですか。久しぶりに室蘭支部より御便りします。

二月二十五日、この日我が支部のMIAにおいて、Mメン・グリーナは「花嫁と花婿の夕べ」を、又、エンサイン・ローレルにおいては、室蘭支部特製のウドンによる「キッチン・カーニバル」を行いましたが、ここで「花嫁と花婿の夕べ」の一場面を紹介します

デモンストレーションにもかかわらず司祭を務める川崎英三支部長の前で、こちこちに固くなっている花婿の花谷洋兄弟とは違ってウエディングマーチの音と共に、川崎節子姉妹に付き添われ、颯爽と入場する平末邦子姉妹……

花嫁花婿の夕べの模擬結婚式

その後、永遠の生命を得、日の栄に入る為の不可欠条件である、正しい結婚をデモンストレイトしましたが、マーチと共に軽やかに退場する花嫁花婿のにこやかな顔、まるで本物のカップルのようでした。

ここで新しくなったMIA役員を紹介します。

MIA管理者　川上輝男兄弟
YMMJA会長　佐藤正喜〃
第一副　高橋　弘〃
YWMIA会長　平末邦子姉妹
第一副　平松和子〃
第二副　川上美恵子〃
MIA書記　永井一代〃
MIA歓迎委員　菅野文男兄弟
小田直子姉妹

役員一同張り切ってますので今後の発展に御期待ください。

○二月二十七日　アロン神権グループ（グループリーダー佐藤正喜兄弟、副リーダー平林英男兄弟、書記関上暁兄弟）が、中心になって讃置歌修理が行なわれました。土曜日の為多くの兄弟姉妹が出席し、古文書のような讃美歌も、みるまに新しく生まれかわってしまいました。針等持った事のないベア長老、ホードウェイ長老も針穴とにらめっこしながら懸命に頑張ってくださいました。材料も二階堂兄弟特製の焦げ付き糊を始め、糸入り障子紙、ガーゼ、ビニール等と、これらを想像しただけでも、出来上った讃美歌の丈夫さは保障できると思います。ところで全国の兄弟姉妹の使用している讃美歌はいたんでいませんか、讃美歌修理をする際は室蘭支部アロン神権グループに手紙を下さい。安価で丈夫な特別修理法を伝授します。

それでは、全国の兄弟姉妹再び御便りする日まで、さようなら。　M・SATO記

群馬支部

今日は全国の兄弟姉妹、群馬支部からお便りいたします。

青く晴れ上がった群馬の空、小さな白い雲が風に吹き流されて行くなか、ついに数日前待望の塔が白く塗られ、完成し、光を受けて純白に輝き、空につきささっている様な感じがします。

建築宣教師も三人から七人にふえ、計画は完成を目前にひかえ急ピッチですすめられています。

去る三月二十一日聖餐会のプログラム扶助協会につづいて二十八日には系図紹介の時間が与えられ宮川長老、チェデスター監督夫妻を中心にクラス員を総動員して紹介が行なわれました。

地方部大会で系図の重要性が説明されていたあとなので兄弟姉妹は熱心に耳を傾けていました。

二月二十五日MIAにおいて花嫁、花婿の夕べという会が開かれました。

その会と言うのは結婚式の予行練習の形で兄弟姉妹のためにモルモンの結婚式について披露したのです。

本当の結婚式ではありません。花嫁、花婿を一人ずつ選びきちんとそれぞれ結婚衣裳を着用して行ないました。

結婚行進曲が鳴り出すと皆感動し、楽しく行なう事が出来ました。

その会が終った後姉妹と兄弟たちは分かれて討論会を行ないました。

テーマは結婚について私たちはこれからどういう事を勉強したらよいか又、どうしたら良い兄弟、姉妹になれるかその他いろいろな事を討論しました。

又私たちの支部にはチェデスター監督夫妻が建築のために私たちの支部にいます。

その事についてチェデスター監督夫妻から経験の深いお話しを聞きました。

チェデスター姉妹のお話した事について少し書きたいと思います。

「結婚について最も重要な事は永遠の結婚である。結婚をしたならば姉妹は夫が働いて得た物で満足しなさい。

そしてあなたは良妻であり、良き母であり看護婦であり、お皿洗いであり、又秘書である事を忘れてはならない。」もしあなたがた姉妹はその事を十分に実行するならば幸福な結婚をする事ができるでしょう。

デビド・O・マッケイ大管長はこのように言っています『姉妹、あなたの夫を愛し、喜びと悲しみを分かち合い問題を解き、そして良い時間を持ち彼が行なうすべての事に彼を助け、勇気づける事が大切である』」。

この会はなごやかな雰囲気の中において意見が交歓されました。この会でいっそう兄弟姉妹が仲良くなれた事と思います。今日はこの辺で、次の支部だよりを楽しみに。……

鈴木なみ姉妹とジョーン・W・ストーカー長老

鈴木なみ姉妹は今から六十年前に日本で最初の姉妹となり日本の初代の伝道部長（その後第七代の大管長になられた）ヒーバ・J・グラント長老及びエンサイン長老ティラー長老たちを横浜の鷲山に案内され、グラント長老は鷲山の森で日本の地を献納されたのであります。今年は八十五才になられ高血圧の為自宅（横浜市中区曙町三一亭）で療養して居られますが、六十数年間、只一すぢに信仰生活を続けて来られ未だに強い証を以って見舞いに訪れる若い兄弟姉妹を励まして居られるお姿は誠に尊く感激と感謝に自ら頭が下がる次第であります。この鈴木姉妹に一九〇三年十二月二十日、現在の明治神宮内苑辺りを流れる溪流でバプテスマを執行したのがジョーン・W・ストーカー長老で現在八十三才位になられているがお元気でソレト・レークに住んで居られます。ティラー長老と共に最初にモルモン経を日本語に訳された方で今日でも、きれいな日本字で鈴木姉妹に時々慰問の手紙をよこされますが、その深い御信仰と愛と御勉学には驚歎の外は御座いません。そしてクリスマスには必ず贈物を送って来られ又鈴木姉妹もいろいろ日本の土産品を送って居られます。

誠に主によって結ばれた兄弟愛は永遠に続くものであることを知らされます。

（横浜支部）

『ねえ、私は目をつぶってこんなことを考えるのでございます。もし全ての人が信仰を持っているとしたら、どこからそれを得たのでしょう？　ある人の説によりますと、全てこういうことは、始め、自然界の恐ろしい現象に対する恐怖の念から起こったもので、神だの来世だのというものは、ないのだそうでございます。ところで、私の考えますに、こうして、一生涯信じ通しても死んでしまえば、急に何もなくなってしまって、ある文士の言っているように「ただ墓の上に、山ごぼうがはえるばかり」であったら、まあ、どうでございましょう。恐ろしいではありませんか！　いったいどうしたら信仰を呼びもどすことができましょうかしら？』

これは、ドストエフスキーの「カラマーゾフの兄弟」の中の一節です。

私がバプテスマを受けたのはちょうど八年前になりますが、それ以来、私は神の存在を疑ったことはありません。そしてもちろん来世のあることをも信じています。でもふっと時々この文章のようなことを思ってみることがあります。もし、私の信じている全てが空しかったら、そして私が復活することを信じて入ったお墓から、決して再び出てくることができず、ただ山ごぼうがはえるばかりだったらどうだろう、ということです。そうだとしたらどんなに悲しく、恐ろしいことか、わかりません。でも、私はすぐ現実に戻ることができ心から嬉となります。実際は、そうではなく、神様も確かに存在しますし、来世も、はっきりと約束されているからです。現在私達が生活している環境には、神を信じることのできない多くの人々がいますし、私達の心の眼を暗くするような妨げになるものが沢山あります。そのようなものに妨げられないような、空しい心で全てを見、聖典を読み、祈るなら、私達には沢山の証拠が与えられています。

人間としての弱さ故に、必ずしも常に信仰する喜びを心から感じているとは言い難い私も、迷ったり悩んだりした後に必ず、そこにもどることができることを嬉しく思います。

そして神様を信じることができ、来世を望むことができることを心から感謝したい気持でいます。

投　稿

――二分半の話――

田　川　幸　子
（中央支部）

登る

雨宮保由
（東京西支部）

「右にアルプス、正面に赤石連山・甲斐駒、そこから流れ出る釜無川（途中で笛吹川と合流し富士川となる）の下流にそびえる日本の象徴霊峰富士。下界に点々と広がる村落、その中を一筋の煙で二つに分け、ひた走る中央線。」

これは、四方を山に囲まれ、白樺とりんどうと鈴蘭の中に生まれ育った私が一昔前に登った八ヶ岳の一つ編笠岳の中腹から眺めた景色である。十年も昔になろうとしている山登りのことを、今こうして思い出して考えてみると、人間が一日一日を生きていく様は、何と山登りに似ていることだろう。

一歩一歩岩場を、大地を踏みしめて、真直ぐにあるいは曲がりくねって頂上に向かい登り行く……。ある人は途中でつまづき、ある人は道に迷い落後し、又ある人は、回り道をしながらも頂上に立つ……。

何かの本に、この様に書かれていた。〝大自然は普段は柔和で寛容で年齢や性や職業を問わず誰でも、来るものはこばまず、去るものは追わない〟と。

毎年のことながら冬山や夏山で遭難する人が続出している。〝柔和で寛容〟という自然の中で何故遭難するのだろうか？　何故自然は尊い人命を奪うのだろうか？　自然が生命を、人間が生命を……？？

私はこう思う〝非は人間にある〟と。

〝山がそこにあるから登る〟山に挑む人の心境はそんな漠然としたものではないはずだ。山男がそんなことで生命を賭ける程に、山に魅せられるのだろうか。もし、そんないかげんな気持で山に望むならば、死して山を下りねばなるまい。「自然を愛し、自然を知り、己れを愛し、己れを知る」この心の準備をしていなければ、山を征服するどころか自分をも征服できないだろう。

数ある登山道から己れの好むもの、己れに適したものを選び出し一歩一歩登り始めねばならぬ。しかし、その前に、その山を良く知らなくてはならない。そして、己れはどんな準備をすればよいのか、どんな装備をすればよいのか、研究しなければならない。そうしなければ絶壁に行き当った時、難所に遭遇した時、自分がどの様にしたらよいかわからな

くなることだろう。わからなくなることは、遭難へ一歩近ずいたということである。

他人が行った道を登ろうとしても、その道に対する知識が無ければ登りきれるものではない。風雨に遇った時、他人からの借り物の装備では、完全に自分を擁護してはくれまい吹雪、風雨、難所の中で、自分のおかれている立場を冷静に見つめ、山の知識を思い出し、己れの持つ装備でどうしたらそこから脱出できるか考えられるのは、結局事前の準備が出来ていた人に限られるだろう。

「木陰から差し込む数状の光、日光に輝く這い松の緑、咲き誇るシャクナゲの花、奇岩奇石の山、新鮮な空気、雄大な眺め。」頂に近ずき頂に立つ爽快感は経験した人でなければわかるまい。登る途中での苦しさが多ければ多いほど、その感激も大きくなるのである。

〝虎穴に入らずんば虎児をえず〟苦労して得たものほど、自分の身につき自分の為になるものである。転んだら起きる。起きる時には、たとえ石ころの一つでも手にして起きる。他人が拾ってくれた石よりも、自分の手で拾った石の方がどんなにか尊いことか。労苦も、苦痛も苦悩も悲しみも、全て無駄にしてはならない。そこから何ものかを、つかみ出し自分のものにすべきである。

我々も、頂を目差して一歩一歩登ろうではないか。現実社会の難所に遇っても逃げることなく、誘惑という風雨にたたかれ、吹きつけられても、自分自身の知識と装備で切り抜けようではないか。神様が人間に与えてくれた知恵と思考力を生かし、頂で味わう爽快感と絶壁の上での満足感をガメツク望み、自分の足場（自分のおかれている立場、現状、環境を無視又は、軽視してはならない。それがどんなに危険で悪いものであっても……。危険で悪いものであればこそ、尚更それを重要視する必要がある。そこから得られる体験や経験は必ず貴重なものとなり後々に生きてくれるはずだからである。）を、よくよく踏みしめて登ろうではないか。

西欧諸国の人々の生活の中には、キリストの精神が地下水的思想となって浸透しているそうだ。それに対して、日本人には、何でも吸収しようという貪欲なエネルギーと強じん

な消化器があるそうだ。我々日本人は、この貪欲なエネルギーと消化器で、キリストの愛・神様の心である地下水を汲み上げ、吸化し、血と肉にしようではないか。これを完全に自分のものとすることができるなら、我々日常生活に於ける、何気無い一挙一動の中に、キリストの愛が表われ、神様の御心が生かされてくるのではないだろうか。

武蔵野市吉祥寺南町五ノ八の二六　雨宮保由

詩篇

わたしは山にむかって
目をあげる。
わが助けはどこから
来るであろうか
わが助けは天と地を造られた
主から来る。

アロン神権

五月はアロン神権回復の月です。
風かおる新緑に色どられた清々しい月、
この月にアロン神権が回復されたのです。
アロン神権について認識を新らたにしたいと思います。

アロン神権回復さる

―五月の朝―

一八二九年の四月の五日、オリヴァ・カウドリと云う一人の若者がジョセフ・スミスを訪れました。オリヴァはジョセフの父の家に長い間住んでいた学校の先生でありました。

当時学校の先生がやっていたのは、この様でした。というのは、彼らは一つの家族と住んでは、また他の家族と住むと云った調子です。

これは教えてもらうために家族の人達が払う報酬の一部となったのです。オリヴァがスミスの家に住んでいた時、若いジョセフ・スミスについて、また神聖な森へ彼が行った事、父なる神様とイエス・キリストが彼の問に答えて下さった事などを聞いておりました。モロナイという名の天の使いによって金板がジョセフ・スミスに与えられたこと、そしてそれは昔々アメリカ大陸に住んでいた人々の歴史を含む記録である、ということも知りました。これらのことがらはオリヴァをもっと知りたいという気持をもたせました。ある夜、彼が床についた後で主に、これらの事が本当に真実かどうか、また、主がそれらを彼に知らせたもうように祈りました。しかしながら、オリヴァはこの事について、ジョセフ・スミスに会う後までは、誰にも言いませんでした。今日なおジョセフ・スミスは、二人の集会については何もくわしいはいっておりません。しかし彼らは、たがいにそれ以来ひじょうに印象ずけられたにちがいありません。二日後、一八二九年四月七日、ジョセフ・スミスは、モルモン経の翻訳にとりかかり、オリヴァは、彼の為に書役を始じめました。これを彼らは四月一ぱいやっておりました。そんなにも翻訳の仕事に専念し興味をもちまして、彼らはすこし休みました。しかしながら、その間私達は、彼らが、いくつかの啓示を受けたと聞かされております。一八二九年、五月十五日、これら二人の若者にとって非常にすばらしく、また、実に特別な何かが起りました。彼らは、記録の中にもっと知りたいと心から欲していた事柄を見出しました。それは罪の許しをえるためのバプテスマについてでありました。

彼らは森に入り神様にその事について随い求めました。この森は、ペンシルバニア州の

ハーモーニーの近くの美しいサスケハナ河の岸の近くでした。ジョセフ・スミスは私達に、彼らが主に祈り、呼びもとめているうちに、一人の天からの使いが光の雲に包まれ降りてきたとつげました。その天からの使いは彼の両手を二人の頭におき、按手聖使し、言いました。「汝ら、我と同じ業に働く僕らよ、メシヤの御名によりて、われ汝らにアロン神権を授く。こは天使の導きと恵み、悔い改めの福音、罪を赦すために水に沈むバプテスマなどの鍵を握る神権にして、まことにレビの子孫が主の御前に再び義しきに適いて捧物を捧ぐる時まで、この世より決して再び取り去らるることなし」と。ジョセフ・スミスとオリヴァはこの使いが、

私達がバプテスマのヨハネと知っているあのヨハネと知って感動しました。彼はヨルダン川で水にしずめるバプテスマをイエス・キリストにほどこしたと同一人物でありました。彼はやってきて、イエスがパレスチナに住んでいた当時の使徒である、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、の指示によって働くものであると言い、これらのメルケゼデクの神権のカギを握る使徒たちが、時が至ればジョセフ、ジョセフとオリヴァにさずけられるとも言い、また、ジョセフは当教会の第一長老とよばれ、オリヴァは第二長老と呼ばれると言いました。ジョセフは最初に、オリヴァにバプテスマをほどこし、そしてオリヴァはジョセフにバプテスマをほどこしました。天使であるバプテスマのヨハネが指示した正しい方法により、互いに水に沈め、水に完全に沈めてから、ふたたび水から起しました。私が（ジョセフ・スミス）オリヴァにバプテスマをほどこすやいなや聖霊が彼に下り、彼は立ちあがって、まもなく起るであろう多くの事を予言しました。そしてこんどは私が彼によって、バプテスマをうけるやいなや、私も立ち上って予言の御霊に満され、教会の起りや、その他教会に関する多くのことがら、また、今の代の人のならいに関することがらを予言しました。それは、ジョセフとオリヴァが決して忘れることのできない出来事でした。オリヴァは言いました。

何んとうれしいことだろうか、何と素晴しい、何んと驚くべき事だろうか、私達は聞いたのだ。私達は見たのだ。私達は讃美したのだ。栄光よりの一人の天使の声であった……。高きにましますお方からのお告げであったのだ。

どんな喜びが私達の心を満し、何によって私達が頭をさげねばならなかったか、私達が彼の手より神聖な神権をうけた時をちょっと考えて見て下さい。私はこの心の気持をあなたにおしつけようなどとはすまい、荘厳な美しさ、またこの時、私達を取囲んだ栄光を……。しかしあなたは私がこの神聖なお方の様に興味深く、崇高な様子を他のいかなる人も時の雄弁をも、言葉で表現を与える事は出来ないと言う時に私をお信じになるでしょう。私達が天使の前にいたことの確実さ、神の御心により命じらしことがら、聖き御方より発する汚れなき真理は、私にとって口にも筆にも尽し難いものであります。私がこの世に生きることを許されている間は、いつも驚嘆と感謝の気持を以てこの救い主の恵の現われることを仰ぎ見ます。

毎日曜日の聖さん会で、私達はアロン神権者である少年や若者達によって聖さんが祝福されたり、配られたりするのを見ることができます。これは彼らにとってまた私達にとって特権であり偉大な名誉でもあり、私達は全世界の人々が福音を回復を知って欲しいと願うのです。

一九六〇年、六月、それゆえサスケハナの

岸の近くで、末日聖徒イエス・キリスト教会の管理監督会がアロン神権の回復を描く「サスケハナ・アロン神権記念碑」として知られた記念碑の除幕式を行ないました。復製の記念碑もソートレークの神殿の広場にまもなく建てられることにもなるでしょう。

これらの石造物は、それを見るすべての人に、「福音を宣べ、且つその儀式を執り行なうためには、啓示と、権威ある者の按手により、神によりて其任に召されねばならぬ。」を宣言しております。ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリは知りたかった。それで、神の神聖な神権をこの地上に回復するためにバプテスマのヨハネがやってきたのです。私達は心からほんとうに喜ぶのです。

私の息子へ

貴方は貴方の魂は私の魂であることを
私の心の枝が根のように、その一部であることを知っていますか？
貴方ほど私の心を痛め私にとっていとしい者は他にありません。
貴方ほど私を喜ばせ私を讃えてくれる者は他にありません。
御覧なさい、世の中はとがめることに急でしょう。
若しも、蔭が汚れが貴方の名を暗くしたら
〝息子は母親そっくりだ〟と言う言葉の
真実であるように
世は貴方によってその母を判断するでしょう。
誇った世をして私を敬服させるようにするのは、
貴方の任務ではないでしょうか。
貴方が世の好評を克ち得た時、
世は必ず言うでしょう。
〝彼女はまいた種を刈入れた
見よー、これは彼女の息子である〟と
マーガレット・ジョンストン・グラフリン

指導精神の啓発

教会の目的は人々を日の栄の王国に導き入らせることであります。

教会の仕事或は又世の事業、国家の運営その何れを問わず常に一つの問題があります。それは指導精神であり、要するに問題となるのはその指導力であります。その問題の解決は指導精神を啓発することにあります。訓練された人は常に訓練されない人よりも効果的であります。これはその人が外科医であろうと、弁護士であろうとお百姓さんであろうとバスケットボールの選手であろうと或は又教会の働らき手であろうと同じように適用されます。

この啓発過程には次のような六つの段階があります。

一、選　択

指導者を啓発する最初の段階は正しい人を正しい場所に得るということであります。円い穴に対しあまりに多くの四角の杭があります。あまりに多くの人が自分の為していることを好んで居りません。あまりに多くの任命が、すべての事実と状態をよく考慮せずに単なる便宜上からなされて居ります。多くの人々がとても成功出来ない程、多くの仕事を背負って居ります。誤った選択は無駄であり効果なくその職の内で顚覆し、士気の消失という結果になります。少ない仕事に満足して、すべての人により広く仕事を分け与えるべきであります。

人を任命する責任あるすべての人は可能なすべての候補者を注意深く考慮すべきであります。これら可能なすべての人の完全なリストを作ることは選択の非常な援けとなります。この選択の技術を向上させる為に個人的な面接、その素質の検討又その背景の調査などに多くの時間と金銭が費されます。

勿論最上の人が最初に頭に浮ぶとは限りません。彼は現在不活潑であるかも知れません。ワード部又はステーキ部は活動を与える目的を以て区劃されたものであります。効果的な選択はその個人の才能や背景を見出せる家庭訪問をもその行程に含むべきであります。すべての指導者は教会の為に才能偵察者であります。今日の最も立派な教会の働らき手が数年前には不活潑でありました。能力よりももっと価値あり、貴重なものがあります。それは能力を認める能力であります。私たちは現在を見越す必要があります。効果的な役員の素質の一つは、人の能力をまだその外面に現れない前に認めることであります。若しも或人が青いリボンをつけていたらすべての人が彼が指導者であることを認めます。

ミケランゼロは石から人を造りました。けれども彼は大彫刻家と

なる前に、原資材の内に完成された作品を見ることを学びました。彼は言いました。

私は一つ一つの大理石の塊の中に像を見ます。

その像は丁度私の面前に立っているようにはっきりと見えます。

その態度と言い、行動と言い、完全に形づくられて居ります。

私は只、その美しい幻影をとぢこめている粗い壁を削り除くだけです。

そして私が既に見たところのものを他人の眼に現わすのであります。

これは同様に私たちの仕事であります。私たちは先ず可能性を見抜くことを学び、それからそれをもたらすに必要なことを為すのであります。現在指導的立場にある人のみが能力を持っていると思うのは一般的な誤りであります。イエスはペテロやジョセフ・スミスのような人を選んで彼らの内に潜在している能力を啓発したのであります。まだまだ多くの能力の富が人々の中に活動せずに潜伏しているのであります。自分自身にさえ知られていない無名の素晴らしい指導者がまだまだ多く居るのです。実際に於て最後にその才能を見出したのは自分自身であったということはよくあることです。けれども若し私たちが、もう少し注意して只見つけやすい人を採ることなく適材適所に人を選ぶように努めるなら、更に多くの人を日の光栄に導き入れることが出来るでしょう。同一人が三つ又は四つの仕事に選ばるべきではありません。

二、新　入

ここに新入とも言うべき行程があります。それは指導精神の啓発に大きな援けとなります。人々はよく自分の知らない或は準備していない役職につけられます。若し人が悪い態度で、或は完全に自分の職務を認識しないで、その任務を始めるなら、その目的は既に出発前に失敗しているのです。誰でも自分の仕事をいやいやするなら決してよく出来ません。理知的な指導者がもって新入に力を注ぐなら、何と素晴らしい相違をもたらすことでしょうか。

この行程に於てその職がどのようなものを伴うのか完全な情報が与えられねばなりません。準備し働らく時間及び機会を見過ごし又は軽視すべきではありません。新入時代の面接の時のその働き手の確信と熱意が彼の成功の堅固な基礎をつくり上げるのです。見込みある働き手は特に彼の責任の重要性を完全に理解して居ります。この時は新入生が問題を見つけ未解決の問題を効果的に解決する為に公開する時であります。ここが心を一つに合わせる場所であります。

新入の行程に於ては何ら条件をつけずに、しっかりとその職務を受け取るべきであります。若し候補者が何かその心にわだかまりがあったり或はその任務を喜ばなかったり、或は必要な時間を与えようとしない場合その人は適任者ではありません。しかしこれらはすべて任命される前に知り解決されねばならないことであります。次の点が彼の心にはっきりとさせられ、各項目に就て確信が持たれねばなりません。

㈠　彼はその機会に就てよく理解し充分な熱意を持たねばなりません。

㈡　彼はその任務の全責任を負うことを理解すべきであります。

㈢　彼は計画と準備に充分の時間を費そうとし、すべての彼の集会

に出席すべきであります。

(四) 彼は教会の如何なる職でも、通常その大部分が個人的な個々の働らきによって効を奏していることを理解し、その働らきをすることに同意すべきであります。

(五) 彼は福音に生活すべきであります。人は自分が生活して感じていないことを効果的に教えることは出来ません。

(六) 彼はこの任務を持とうとしなければなりません。〝されば汝らもし神に仕えんと望むならば、汝ら神の業に召さるるなり。（教義と聖約四：三）若しも彼がしようとしないなら彼は出来ないのであります。〝希望がその人の導き手であります〟

(七) 働き手が、前以て彼の仕事が期待されていることを知り熱心な専門的な監督を持つであろうことを知ることは大きな援けとなります。

三、就　任（導入）

(一) 候補者は、支持を得る為に彼の組織の会員の前に紹介され、それから彼の職に按手任命されるのであります。

(二) 彼は自分の職を遂行する上に根本的な道具である次のものに通じねばなりません。

a、手引き。

b、教材、便覧、教師用補助等

c、図書館、地図、絵画、参考書、その他彼の職務に関係ある資料。

(三) 彼は彼を訓練し監督する人たちに紹介されねばなりません。その関係は前以てお互に理解されて居るべきであります。

四、訓　練

訓練とは継続する行程で、正しくは図を追ってまわるものであります。

1 I、インストラクト（教授）
2 D、デモンストレイト
3 O、オブザーヴ（講評）
4 C、コレクト（訂正）

すべての就任者は正しく教えられねばなりません。只教えられるだけでは不充分であります。彼はそれをどのようにすべきか示されねばなりません。私たちは耳で聞くより眼で見る方が早く学ぶようであります。

教会の中のすべての人の働らきは、彼の進歩を授ける為に常に講評されねばなりません。授ける為に人の仕事の誤りをその側に立って観察することは割合に容易なことであります。

監督の失敗の一つは私たちが建設的な意見を与えることを恐れることにあります。私たちは訓練を受けている人が批判されていると思うであろうことを恐れて或場合には事なかれ主義に陥って失敗するのであります。けれども訓練する人及び訓練される人の双方がその訓練行程を訓練を始める前によく理解していたら悪い状態は起らない筈であります。仕事に訓練することは事業及び軍隊の成功の根底であります。それは若し専門的に卒直に実施されるなら教会に在

っても、効果的な仕事の鍵であります。

五、監　督

或人を仕事の中にほうりこんで沈め或は自分で泳がせると云う旧い訓練の方法は今日一般的に信頼されて居りません。事業団体、政府その他の企業は、すべての人に対する不断の監督が大きな配当をもたらすことを発見しました。監督される人は多くの点に於て授けられるのであります。そして彼の仕事を重要に効果的に満足なものとするのであります。これは人々を救う仕事に於て最も大切であります。

六、刺　戟

人々の心に信仰の火を燃え上がらせる方法が発見されました。人々は多かれ少かれ寒暖計のようなものであります。彼の熱意は零下三十度であるか或は又二百十二度であるかも知れません。その人の動起によります。オスカーハンマスティンは〝心はその火を以て他の心を霊感させることが出来る〟と言って次のように述べました。

或勇敢な人々を私に与えて下さい。
彼らが称える義の為に戦う人々を、
十人の勇敢な人々と共に始めよう。
そうすれば間もなく私は数万の人々に与えるでありましょう。

数会はわずか六人を以て出発したのであります。けれども知識や証や熱意は他の人々に移すことが出来たのです。人々の心を動かす能力は誠に世の中で最も建設的な能力であります。

上記六つの段階は単に新任の人にのみ適用されるものではありません。既に職にある人の成功線がショートしているのを探す時、全く同様の公式が見られるのであります。

貴方は現在貴方の下に働らいている一人一人にこれらの段階を適用してごらんなさい。

一、再　選

この特定の仕事に彼が再適任者であろうか？　若しそうでなければ変更せねばなりません。救いの仕事に於て、単に不適任者がその職に居ることによって失敗に陥らせることは考えられないことであります。他面、彼が最適任者であるにも拘わらず効果が上がらない時は私たちは如何にすべきでしょうか。

二、再新入

この再新入の行程を或実業家が大きな能力を持っているけれど、その商社に損失をもたらす被傭者に対する処置に考えて見ましょう。何故その被傭者は失敗するのでしょうか？　彼は期待されていることをはっきりと理解しているのでしょうか？　彼は働らく意志があるのであろうか？　何かはっきりした改善の計画を持っているのであろうか？　彼は今後百パーセント実行することに賛成だろうか？　膝をつき合わせて話し合う必要があるのです。私たちは御父の仕事に於てお金を失ってはならないのです。恐らくその商社の社長はその被傭者に言ったでしょう。〝ビル、お前がやる気があるなら喜んで働いてもらうよ〟

若しも彼が思わしい結果を得ることが出来ないか又は得ようとし

ないなら、勿論その職に留ることは考えられないのであります。

三、再導入

彼は働らくに適当な資料を持っているであろうか？　若しも持っていないなら直ぐ入手すべきであります。そして彼が何故前もってそれを手に入れなかったかを知らねばなりません。何処に私たちの組織の低下があるのであろうか？

四、再訓練

訓練又再訓練は成功の道であります。或人が半年毎にすべての事を再び学ばねばならないと言いました。訓練、再訓練の行程による理解、熟練、態度、習慣がつくられ改善されるのであります。不断の効果的な訓練は仕事を生産的に楽しいものとするのであります。人がその仕事に前進しているならその人は仕事を愛しているのであります。若しも仕事に遅れているなら、それをきらっているのです。完全な再訓練によってすべての成果が上がるでしょう。益々満足すべき状態となり、失敗、失望、やり直し、時間の無駄が減ります。それは同時に神の子供たちで最高の日の栄に入る機会を失う人を少くします。

五、不断の監督

貴方は貴方の監督下にある人たちと常に接触して居りますか？　貴方は彼らの長所や短所を知っていますか？　貴方は常に進歩をもたらす為に必要な援助を与えようとしていますか？

六、再刺戟

人はほったらかされると或場合にはガソリンが切れる恐れがあります。失望するからであります。人々は或時には、生活の戦に疲れ果てるのです。殆どの人が、誰かに、その信仰をかき立て、熱意を注がれ、目的に霊感させられることを必要としております。私たちの成果を常に誰かに見守ってもらうことを必要としているのであります。

大事業会社の多くが、その最高指導者たちは彼らの執務時間の四十パーセントから六十パーセントをその監督下の人々を直接指示し刺戟することに費していると報じております。私たちは教会内でこの事をもっと実施すべきであります。

私たちの指導精神は常に研究し働らき続けねばなりません。その正しい進歩によって、私たちはこの世で善の為の偉大なる力、効果的に指導する能力をもたらすことが出来るのであります。

D・カーネギーはその名著〝人を動かす〟の中で、人に好かれる法六を次のようにあげている。

一、誠実な関心をよせる
二、笑顔を忘れない
三、名前を覚える
四、聞き手にまわる
五、関心のありかを見抜く
六、心からほめる

東中央地方部

春季大会

春季東中央地方部大会

今年はじめての東中央地方部大会は三月十三・四日の両日東京北支部に於て行なわれた。大会は今年七月にハワイ神殿行きの計画があるのでこれを中心にプログラムは展開された。会場には「THE NEW ERA」と題された字が参加者の目を引いた。

神殿行きを希望している兄弟姉妹が力づよい証詞をもって話をされていた。

それに神殿行きには欠かせない系図探求の重要性を再認識させられた大会でもあった。

― 神権会大会開会式から ―

神　権　会

神権者は教会発展の土台である大会ごとに神権者の数は増している。指導者に対して熱心に耳を傾けている。アロン神権分級レッスン風景。

扶 助 協 会

扶助協会のレッスン風景、指導者の示す教材にじって見いる姉妹たち。

伝道部系図委員長
——渡部正雄兄弟——

系図は神殿と切っても切りはなすことのできない大切なものである。それだけに今度の神殿行きの系図の記入も正確を期さなくてはならない。記入方法をていねいに説明されているところ。

川田兄弟（南支部）

神殿行きについてその心構えをのべておられる兄弟の顔には真剣なまなざしがうかがえる。

丹羽姉妹（北支部）

神殿行きの喜びを語る丹羽姉妹は改宗以来系図を東奔西走して探求されている熱心な姉妹である。

扶助協会の〝和〟ここに結集さる

扶助協会は独立会計の組織であります。昨年新しい伝道部扶助協会長とその補佐副会長が按手任命されてから、この人たちが全伝道部を旅行するのを援ける為に資金が必要であることが明らかになったのであります。これらの方が地方部及び支部を廻って指導と励ましを与えることは大切なことであります。この旅行を援ける為に、資金をつくるいろいろの計画がなされました。アンダーセン姉妹は日本から掛布団を持って行きたい希望を表明され、その掛布団の為に名前の布片をつくることが一つの計画として決定しました。

＜写真はアンダーセン伝道部長御夫妻、
柳田伝道部扶助協会会長と八木沼同副会長＞

扶助協会旅行資金に献金したいすべての人はその布片の上に名前を記すことが出来ます。多くの者が彼ら自身の名前の布片をつくり、その結果非常に変った面白い型のものが出来上りました。各支部がこれらの布片を縫い集めてそれを扶助協会長柳田聡子姉妹の処へ送り柳田姉妹と副会長の八木沼姉妹はそれらの資料をまとめ縫って掛布団の裏にして完成したのであります。最初、特別大きな一枚の掛布団に縫いこむ予定でしたが、あまりに多くの名前の布片を受取ったので掛布団を三枚つくらねばならなくなりました。アンダーセン部長とアンダーセン姉妹はその掛布団を扶助協会から買いました。この計画で出来たお金が扶助協会会長会の昨年度の全伝道部を通じての旅行を可能にしたのでありました。

アンダーセン部長とアンダーセン姉妹は、親しく喜びと感謝の念を表現されました。

〝私たちの心は日本と沖縄にあります。私たちが、ここで過した三年間は他の何処で過した生活よりも幸福でした。私たちはもっと長く留りたいです。極東の人たちの間で働らく特権は私たちの最大の祝福でありました。私たちは、この地の素晴らしい聖徒たちと交わることが出来たことを常に主に感謝するでありましょう。何年か経った将来、私たちが皆さんとお別れした時、この愛すべき掛布団を眺め触れてその上に縫い込まれた美しい名前を懐しく読むでありましょう。私たちはほんとに皆さんの努力の賜を喜んで居ります。これらの面白いそれぞれのスタイルの名前の布片は暖かく心地よく私共のベッドを覆うでありましょう。将来私たちがこれらの掛布団を掛ける時何と素晴らしい記念となることでしょうか。

《民数記断想》

神の聖潔について

新田正信

民数記は『荒野に於ける歩みと、戦争の事が』記されている書であることは既にご存じの通りでありますが、私はこの民数記の第五章の一節から四節迄を読んで次の事を学ぶ事が出来ました。

それは神の臨在し給う『真の神の教会』の『聖潔』について、と信仰ある私達個人の良心についてであります。

まず五章の第一節から四節までを読んでみますと、

『主はまたモーセに言われた「イスラエルの人々に命じて、らい病人、流出のある者、死体にふれて汚れた者を、ことごとく宿営の外へ出させなさい。男でも女でもあなたがたは彼らを宿営の外に出してそこにおらせ、彼等に宿営を汚させてはならない。わたしがその中に住んでいるからである」。イスラエルの人々はそのようにして彼等を宿営の外に出した。すなわち主がモーセに言われたようにイスラエルの人々は行った』こう書いています。

この数行のうちに教会の訓練についての大きな意味が示されている事を学ぶことが出来ます。――この意味は、極めて重要なものでありますが、私は今まですこしも理解することがなく、また注意もしていませんでした。

イスラエルの人々の中に神が住み給うことは、神が彼等の側に聖潔を要求するものではないでしょうか。『彼等に宿営を汚させてはならない。わたしがその中に住んでいるからである』と言われる通り聖きお方が住み給うところは清くなければならないことは、明らかな真理ではないでしょうか。

現代に於て神が、ご自身の民の中に住み給う土台は「あがない」である事は、皆様はすでにご存じの事と存じますが、神が民の中に引きつづいて住み給うために必要な事は訓練であることを記憶しなければなりません。

悪があって、これがおおやけに許されているところに神は住み給うことが出来ない。

神の御名は讃むべきかな。神は人々の弱さや無知は忍び給うけれども、神は悪をみて、それを許し給うことは出来ない。

悪は神とともにあることは出来ず、また神も悪と交わり給うことはない。

悪は神を拒む性質をもっていますが、神は、ご自身を拒むことはないのであります。

一般のクリスチャンといわれる人の中には「しかし、聖霊なる神

は信者個人の中には住まない。なぜならば、信者の中に多くの悪があるではないか」という人がいるでしょうが。しかし、実際に聖霊は、完成されたあがないの土台の上に、信者の中に住み給うのであります。

これは教会の会員であれば誰れでも常識的にわかっていることです。ほんとうに聖霊は、人間の生来の性質の中には住み給はないが、キリストのあがないの血の価値のしるしとしてキリストの贖いを信じた者の内にのみ住み給うのであります。

そして聖霊の臨在と交りとは、私達の中にある悪が審かれる程度に比例して、楽しむことが出来るのであります。私達の心の中にある不正を許し、私達の肉と心の欲望とをほしいままにしておきながら、誰が内住の聖霊を知って喜ぶことが出来ましょう。

私達は、私達自身を審いて、私達の中に住み給うお方の聖潔にふさわしくない、すべてのものを捨てるべきであります。

私達の『古き人』はこれらのことを知らない、古き人は神の前に存在しない。古き人はキリストの十字架によって全く処分されたはずであります。私達は古き人の働きを感じたとき、それを悲しむ。その故に私達自身を審くのであります。

然し、神は、キリストの中に、――聖霊――によって――新創造の中に私達をみ給うのであります。そして、聖霊は、キリストの血の土台の上に、私達信者の体の中に住み給うのであります。

このことが、すべての形の悪に対して、審判を要求するのであります。

このようなことは、また教会の集りについても同じくいえるのではないでしょうか。勿論集りの中にも悪は存在するでしょう。……各個人の中にも悪があるでしょう。

そして、その悪は審かなければならない。悪が審かれると、悪は行動することが出来ず、無力のものとなります。悪を審かない集会は、道徳を廃棄する集団と同じであります。

自身の中にも、行為にも悪を審くべきおごそかな責任を持たないものを肯定する。聖徒に対しては何んというべきでしょうか。

このような土台に立つことが個人として誤りであるならば、教会の集りとしても誤りでないはずがない。こういうことが疑問視されるということがあるときは、理解に苦しむのであります。

イスラエルの人々が、本章の始めに示された、神の絶対の命令に従わなかったら、その結果はどうであったでしょうか？　神は何んといい給うでしょうか？

私はヨシュア記第七章を思い出します。そこにおいていかにおごそこに聖言は答えられているかがわかります。

アコルの谷に『石塚を大きく積みあげた』（ヨシュア記第七章二六節）ことを注意してみたいと思います。それは何んでありましょうか。

『主は聖なる者の会議に於いて恐るべき神、そのまわりにあるすべての者にまさって大いなる恐るべき者です』（詩八九篇―七節）

『われらの神は焼きつくす火である』

等々と聖言はしるしていますが、これはどういう意味でしょうか、これらの聖言についてよく考え、よく味わなければならないと思い

ます。肉の情が集会の人々の心に巣喰ったとき、そこで罪が犯されるのであります。それが膨大して次には教会のすべてに及ぼして行くのではないでしょうか。（ヨシュア記第七章一一―一二）に

『イスラエル（アカンだけでなく）は罪を犯し、わたしが彼等に命じておいた契約を破った。彼等は奉納物を取り、盗み、かつ偽って、それを自分の所有物のうちに入れた。それでイスラエルの人々は、敵に当ることが出来ず、敵に背を向けた。彼らも滅ぼされるべきものとなったからである。あなたがたが、その滅ぼされるべきものを、あなたがたのうちから滅ぼし去るのでなければ、わたしはもはやあなたがたとは共にいないであろう』

といっていますが、これは、特におごそかな、またきびしい聖言であります。これはたしかに私の耳に強く訴えるもので、また私達の心に聖なる教訓を運ぶものであります。

この聖言が示すように、イスラエルの宿営には（ヨシュア自身もそうであったろうと思いますが）アカンの罪の事実に無関心な多くの者がいたようです。しかも聖言は『イスラエルは罪を犯し……契約を破り……奉納物を取り……盗み、かつ偽った。』と記されている。

何故『イスラエルは』と記されているのでありましょうか。それは集会（真の神の教会）は一つだからではないでしょうか。集会の中に神がいますことは、集会が一つであるということなのではないでしょうか。だから、集会の中の一人の罪は、すべてのものの罪であったのではないでしょうか。

コリント第一、五章六節に『少しのパン種が粉のかたまり全体をふくらませる』とありますが、人間の理性はこれに反対するでありましょうか。人間の理性は、理性の狭い範囲を越えて存在するすべてのことに反対するものであります。

然し、「神が言い給うなら」信仰ある心にとっては、それで充分であります。だから信仰ある心は『なぜ……とか、どうして？』とかと、問わないのであります。神の証しは、すべてを解決します。

私達はただ信じて、従うのみ、であります。私達にとっては、神の臨在の事実は、聖潔を要求し、悪を審くものであることを知れば、それで充分であります。

イザヤ書六五章五節に『あなたは、そこにたってわたしに近づいてはならない』と書いてありますが、これは神のいかなるお方にいますかと言うのではなく、

レビ記二〇章の七節に『ゆえにあなたがたは自らを聖別し、聖なる者とならなければならない』というのが、神のみ心ではないでしょうか。

悪が審ばかれぬところに、神はその聖き臨在を許し給うことはないでしょう。

奉納物をとったアカンを含むイスラエルの人々に、神はアイにおいて勝利を与えることが出来たでありましょうか。それは不可能なことであります。このように清められぬ状態にある彼等に勝利を与えることは、神にとって不名誉なことであり、また、イスラエルにとっても最悪のことであります。

イスラエルは懲らされなければならなかった。彼等は卑くされ、心を砕かれなければならなかった。彼等はアコルの谷――なやみの場所――に下り行かなければならなかった。ここそは、悪が侵入したときに開かれる『望みの門』であり得たのであります。

然し、私は皆さんに誤解のないよう希望します。それはマタイ伝七章一節に『人をさばくな。自分がさばかれないためである』とあるではないか?といわれる人がいるからです。たしかにその通りであります。しかし、これらの聖句は何を意味するのでありましょうか。

また、この聖言は、他の人が何を信じ、何を教え、何をなそうとも、ひとしくすべての人を受け入れるべきである。というのでありましょうか。これが私達の主の言葉の力であり、またその意味でありましょうか。誰がそのようないぶかしいことを考えるでありましょう。私達の主は同じ章で『にせ予言者に警戒せよ』と言い給うています。私達が審くべきでないならば、いかにして誰かを注意することが出来ましょうか、いかなる場合にも審判が行なわれないとするならば、なぜ私達はかようなことを注意するようにと言われているのでありましょう。

皆さんこの真理は、きわめて明らかであります。神の教会は、集りに入ろうとするすべての人々の教理と道徳とを判断する責任があるのではないでしょうか。その動機をさばくべきでなく、その道をさばくべきではないでしょうか。使徒パウロはコリント第一五章十二、十三節に、『外の人たちをさばくのは、わたしのすることであろうか。あなたがたのさばくべき者は、内の人たちではないか。外の人たちは神がさばくのである。その悪人をあなたがたの中から除いてしまいなさい』とはっきり言っているのであります。私達は『外の人たち』をさばくべきでなく、『内の人たち』を審くのであります。これは、クリスチャンという立場をとる人々――真の神の教会の会員という立場をとる人々――のことで、これがさばきの範囲内にあるのではないでしょうか。

誰れでも、教会の会員となった方は、その中に住み給うお方の聖潔に反するすべてのことに対して訓練させられる立場に立つのではないでしょうか。

私達は『智恵の言葉』を守り聖霊の宿り給う肉体を清めると共に、精神も、道徳的にも聖霊の臨在し給うにふさわしい状態に在るよう常に努めなければならないと思います。

（在責筆者）

微笑

D・カーネギー

チャールズ・シュワップは自分の微笑には百万ドルの価値があると言っていたが、ずいぶん控え目に評価したものだ。彼のなみなみならぬ成功は、もっぱらその人柄、魅力、人に好かれる能力などによってもたらされたものであり、彼の魅惑的な微笑は彼の人柄をつくりあげる最もすばらしい要素なのである。

あるとき私は、モーリス・シュヴァリエと午後を共にすごしたことがある。正直に言うとがっかりした。気むずかしそうにむっつりとした男で私の想像していた彼とは大ちがいだ。すくなくとも、彼がほほえむまではそう感じていた。ところが一度ほほえむと、まるで雲間から太陽が急に輝き出したような気がした。もしあの笑顔がなかったなら、モーリス・シュヴァリエはいまだにパリーの裏町で親父の家業をついで家具職人をしていることだろう。

動作は言葉よりも雄弁である微笑はこう語る。

「私はあなたが好きです。
あなたのおかげで私はとても楽しい。
あなたにお目にかかって嬉しい」

伝道部扶助協会会長　柳田聰子

三月十七日の扶助協会創立記念日に際して私は日本に於ける扶助協会を考えてみました。一九五〇年一月八日に名古屋市に於ける最初の日曜学校が開設されて、それまで私達は佐藤竜猪兄弟姉妹の居られる鳴海まで行かなければならなかったのが、市内に集会が出来た事を本当に喜び、感謝感激してその某学園の講堂に集まりました。その頃は私達も会員とはいえ、何も知らない幼児同様で、教会の補助組織についても全然無知でした。それから四ケ月程して女の人達の為に姉妹宣教師を中心として集会が開かれました。当時の支部長はその集会は本当は扶助協会というのだが組織が出来ていないから「婦人会」と呼びましょうといわれ、この「婦人会」が半年余り続きました。それから現在の様な扶助協会として発展して来ました。他の支部ではどの様な発足をされたか東京の奈良姉妹や松本姉妹、尾古姉妹等に伺ったら面白いと思います。アメリカでは一八四二年三月十七日「ノーヴーの婦人扶助協会」として予言者ジョセフ・スミスにより組織されました。当初二十六人の会員しかなかったものが、一九六三年末には二十六万二千人余の会員が登録されていました。百二十一年間に二十六万二千人の会員増加があったことになります。その間ノーヴーの扶助協会は世界の扶助協会として一般にもその働きが知らされて来ました。戦後困っていた日本に伸べられた扶助協会の援助の手の温さを覚えておられる方達も多いと思います。私達は貧しい人、病める人、不幸な人達を助け、慰め、社会道徳を矯正し、自身の知識を深め、信仰を強めるという目的にそってこれからも手をとり合って働き、学んで行きましょう。日本沖縄併わせて一九六四年末には六百九十五人の会員が登録されました。この人達が皆で手をつないでその持てる灯を高く掲げようではありませんか。

今般、西と東に相ついで地方部大会があって、出席させて頂きました。そこでは神殿訪問の計画によって、その望みを持つ恵まれた方達の喜びが満ちていました。神殿で結ばれようとしている姉妹達、何卒その恵まれた光を一層高く掲げて模範的な活潑な姉妹になって下さい。喜びを持つ姉妹達は誰でも、扶助協会の目的をもう一度自覚して、一人でも多くの人を慰め、励まして実際に働くように扶助協会の集会に活潑に積極的に参加して頂きたいと思います。私はこの記念日に際し、出来るだけ伝道部内の横の連絡をはかって、出来るだけ多数の姉妹達が手をつなげるように橋渡しとして働いて行きたいと願っております。何卒どしどし御鞭撻下さいますようお願いします。

「指導性の二つの特質」

良い指導者になるのに多くの特質が結合しておりますが、本当に立派な指導者には、とりわけ二つの特質がかかげられます。一つは本来の勇気であり、たゆまなく人の信念にむかう誠実な勇気であります。これらの原則により生活し、これらの原則を証明し、これらの原則と親しく調和を保ちながら自己を統制するなどの正しい原則を、強く信じてゆく勇気です。もう一つは、賞讃される指導者は、神を愛し、真理を愛し人を愛することであることをすべての人々に知らせる美しい謙遜さと、手腕であります。それは総ての人の個性の神聖な価値を尊重する事に理解を持つことです。むしろ真理の力が偽りの力よりもよりすぐれている様に、愛の指導性は、恐れを使う指導性よりすぐれております。

人の心を引きあげる力は、その人の心を押えつけようとする力にまさっております。もしある人が強い信念である、最初の特質を持つていたとしても、二番目の謙遜と愛と人を動かす〝こつ〟である特質にかけていたら、彼は力強い指導者かもしれませんが、真の良い指導者とはいえません。彼は愛の力や、彼の人格の気高さによるよりも、むしろ、おどしによる力と彼の職務の地位により人をおさめようとするでしょう。もし人が最初の特質である力と独断的な信念を持たず、二番目の謙遜と愛と人を動かすこつだけを持っているなら、彼は好かれ、また愛されるかもしれませんが、彼は指導者というより従うものとなってしまうでしょう。二つの特質は理想的な指導性にとっての本質的要素であります。これらすべてについていわせていただきますと、もちろん、百年以上も前にジョセフ・スミスにより本当にはっきりと打出された言葉を新らたに、くり返すにすぎません。

「見よ、召さるる者は多けれども選ばるる者は少し。選ばるることなきは、これそもそも何の故ぞ。そは人々の心甚しくこの世に属けるものの上にあり、唯人間の誉を得ることを望み、次の如き一つの戒めを知らざるによる。曰く、神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして、天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなり……。」われら悲しむべき経験によりてこの事を知る。およそ殆んどすべての人間は、少しばかりの権威を得たいと思うや、忽ち正しからざる支配を始めんとする生れつきの性癖あり。如何なる権力も勢力も、神権によりて維持する能わず、また維持すべきものにあらず、ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。」

主のもとに はたらく人々

日本に建築宣教師制度が誕生してもう二年半になろうとしている。

すでに当初召された兄弟は二年の任を終えて社会に出で一生懸命に働いておられる。

また一方、この宣教師に召される兄弟も全国から集って建築にたずさわっている。

今月はこの兄弟のうち本部建築に従事されている兄弟を紹介したいと思います。

青山篤三兄弟　二十一才

（札幌支部）

一九六三年十月六日に小樽支部に於いてバプテスマを受けた。

今年の一月に建築宣教師として召された。

道産子で趣味はスケート。

伝道本部で働らいている。

働らいていて心から楽しいといった感じを受ける。

今後の希望は東京で働らきたいらしい。

石井尊士兄弟　二十四才

（札幌支部）

バプテスマを受けたのは一九六二年七月二十九日。今は中央支部となっている、もと西支部である。

彼は九州男子であり絵は趣味以上の才能をもちあわせている。

街頭でにがお絵をかいたこともあるという変り種（ちっと失礼）であるといっても彼と話していると人間味あふれる話が聞かれる誠実そのものの兄弟である。

石坂晃一長老　二十二才
（西支部）

バプテスマ　一九六三年十一月三日
育ったところは上州は赤城村でちっと国定忠治に似て気っぷのいいところがある。
建築の仕事についていたとき西支部の宣教師に導かれてバプテスマをうける。
昨年五月に建築宣教師になったのでもう一年になろうとしている。
彼と話しているとバラ色ムードにいろどられるほど暢気な雰囲気をもっている。
反面ウェットな面があるようだ。

西俣嘉明兄弟　二十五才
（西宮支部）

バプテスマは一九六四年十月四日。
今年一月十日に建築宣教師に召さる
建築宣教師の庶務係（？）をも兼ねている。

李敏炯長老　四十四才
（中央支部）

バプテスマは一九六三年二月十日。
もうすぐ二年間の宣教師を終える。

実父母の氏名を書いて下さい。その他の養子（養家を継ぐ為に子供の時から食子に行く場合等）の場合は原則として養父母の氏名を記入し養父母にシーリングされます。もし実父母の系図も作り実父母の家族の記録にも子供の欄にその養子の氏名を記した場合には、実父母又は養父母のどちらにシーリングを希望するか記入して下さい。

㈡夫又は妻が再婚又はそれ以上の場合、手方（妻又は夫）の氏名の前に(2)或は(3)と記入し、又、その他の妻又は夫を、その他の妻又は夫の欄に結婚順に(1)(2)(3)と番号を入れて記入して下さい。

㈢今度のハワイ神殿訪問の為に提出されたシートは急いだ為に大分不完全なものがあり、系図協会の方でクレヤすることに困難を来たして居られるとのことで今後提出する記録は時間をかけ最善を尽くして出来るだけ完全なものとして提出するように、又どうしても不完全な場合はその理由を説明して出すようにして下さい。

一、ハワイ神殿訪問者へ

渡部

○神殿へ入る為の推薦状は会員名簿（支部から提出されたもの）に基いて出されますのでもし生年月日、バプテスマの日附等に就て、神殿に行く時に携帯する自分の家族の記録との間に相違があると困りますから神殿訪問予定者は出発前に一度支部の記録をチェックするようにお願い致します。

二、系図家族の記録作成上の注意事項

㈠婿養子の場合には系図家族の記録を問わず

こ と ば

○愛は力行苦難のうちに光明を見る。
○愛は耐え忍ぶうちにも疲れを感じない。
○愛は激せず、一切を宥し、粗暴に振舞わない。
○愛は自負に陥らず、謙抑にして、放縦に走れない。
○愛は太陽の如く公平なり、正しきを支持し正しからざるを正しくする。
○愛は親心である。自らのためにせず、他のための犠牲を犠牲と思わない。
○愛は真理を楽しみ、一切を育ぐくむ。
○愛は希望であり、信仰である。希望は人間を向上せしめる。
○信仰は叡智の源泉であり、一切の教育、一切の文化の母体である。

—ペスタロッチ—

○外戚関係の神殿の儀式に就て質問しました処、系図協会太平洋諸島係エルウィン・W・ジェンセン兄弟より次のような、手紙がありましたから御参考迄に掲載します。（渡部）

拝啓

外戚すなわち直接血のつながりのない親族のために神殿の儀式を行なうことについて質問をなさったお手紙拝読致しました。

わたくしたちが神殿の儀式を行なうのは「自分と直接血のつながりのある親族」を救うのが目的でありますが、また自分から遠い祖先に至るまで全部を一つの鎖になるよう結び固めをして、自分自身を自分の先祖に結び固め、また自分の父と祖父と曾祖父とを各々の子供たちと結び固め、このようにして最初から今の自分に至るまで自分の家族を全部含む一つの鎖として結び固めることが目的であります。

従って私たちは次に挙げる人々のためにだけ神殿の儀式を行なうのがきまりであります。

一、自分と直接血のつながりのある親族。
どんなに昔の先祖でも、またどんなに血のつながりのうすい親族でも

二、養子として入籍した（又は家族の系図に入れられた）人々の家族及びその親族。日本では養子にした父母及びその家族、親族を含む。

三、自分と直接血のつながりのある親族と結婚をした人々その家族及び子孫（但しその人々の先祖は含まない）

これによって私たちは自分と直接血のつながりのある親族と結婚をした人々、その家族及びその子孫だけに神殿の儀式ができるのであります。但しその人々の先祖は含んで居りません。もちろんその目的とするところは、私たちと関係のないほかの家族の為にではなくて、自分自身の家族（祖先に至る迄の全部を含む）のために神殿の儀式をするところにあるのであります。

私たちはあなたが「傍係親族」の為にも神殿の儀式ができることを知っていらっしゃることと思って居ります。

このようにして、私たちは自分と直接血のつながりのある祖先のあらゆる子孫（今から百年以前に生きていた）の為に神殿の儀式を行なうことができます。

それで私たちと直接血のつながりのある親族と結婚をした人々、その家族及び子孫等を改宗させるのが私たちの仕事であります。若しこの人々が改宗をした時には、その人たちが「家族代表」となって遠い祖先に至るまで、その祖先の為に神殿の儀式を行なうことが出来ます。

次に目下系図協会で手伝っている佐藤竜猪兄弟からの注意事項二を挙げます。

一、新しい書式の Family group Record の向って左下にある Source of information の欄に必らず「記録の出所」を明瞭に記載すること。例えば戸籍簿、過去帳、系図、記録等なおその出所、時代等も附記すること。例えば寺について言うならば「どこどこの何という寺」の「いつごろの記録」であるかを附記して下さい。

二、或る人についての「姓名」（ローマ字綴の発音）と「生年月日」と「誕生の場所」「バプテスマの月日」とは「教会の記録」（メンバーシップレコード）と家族の記録と「テンプル・レコメンド」の三者が完全に一致していなくてはならない。「系図協会」に送る前に或いは神殿に行く時直接自分の家族の記録を持って行く前に必ずチェックしてもし相違があったら訂正しておくこと。

家族代表者一傍系 関係一覧表

HUS (2) WATABE, Kameji 渡部亀治

Bor 10 Mar 1872 (L) 明治5年5月10日

Chr (not married) Place Takahira-mura Soma-gun

Mar Reg 6 Feb 1914 (now Haranomachi-shi)

Die 4 Aug 1941 Fukushima-Ken

Bur Cre(mated) Place

HU. FA. SAKAMOTO or WATABE, Tokumatsu HUS MOT WATABE Hatsu

HUS OTH (1) TAKANO Sei 高野せい (3) UEDA Masako 上田正子

WIFE (2) TAKANO, Tsuru 高野つる

Bor About 21 Aug 1885 明治18年8月21日

Chr Place

Died 1 Jan 1964 昭和39年1月1日 Place

Bur Place

WIF'S FATHER KAMATA or TAKANO, Tokutaro 鎌田 or 高野徳太郎

WIFE'S OTHER HUSBBANDS (1) MURATA, Kazuo 村田一夫 (3) MINAMI, Kei 南 敬 (4) KINOSHITA, Harukichi 木下春吉

Husband WATABE, Kameji 渡部亀治

Wife TAKANO, Tsuru 高野つる

Ward 1. SAIJO Seiji 西條清二

Examiner 2. MORI Isamu 森 勇

State or Mission: Northern Far East Mission

NAM & ADDRESS OF PERSON SUBMITTING RECORD: SATO, Tadashi 佐藤正, 14 Kamayacho Hodogaya-ku Yokohama

FAMILY REPRESENTATIVE: SATO, Tadashi (D) 佐藤正

R. of F.R. TO HUS: Grand Son

R. of F.R. TO WIFE: Grand Son

TEMPLE ORDINANCE DATA

	BAPTIZED (Date)	ENDOWED (Date)	SEALED (Date & Place) WIFE TO HUSBAND
HUSBAND	5 May 1938		
WIFE			SEALED (Date & Place) CHILDREN TO PARENTS

SEX M F	CHILDREN 順番	WHEN BORN DAY MONTH YEAR	WHERE BORN TOWN	COUNTY	STATE OR COUNTRY	DATE OF F M TO WHOM	WHEN DIED DAY MONTH YEAR		
M	WATABE, Hajime	11 Oct 1911	Takahira-mura	Soma-gun	Japan	19 Jan 1937 HIRABAYASHI, Shigeko	4 Feb 1965		
長男	渡部 一	明治44年10月11日				昭和12年1月19日 平林重子	昭和40年2月4日		
F	X WATABE, Hanako	25 Nov 1916	〃	〃	〃	31 May 1935 SATO, Akira		8 July 1949	
女	渡部花子	大正5年11月25日				昭和10年5月31日 佐藤 明			
M	WATABE, Chikara	3 June 1923	〃	〃	〃	infant		Child	child
男	渡部 力	大正12年6月3日							

資料を入手した場所

その他の結婚 (1) 24 Mar 1955 Md. HOSHI, Hana 昭和30年3月24日 星 花

必要な説明

傍係家族代表者関係一覧表

注 男性→S
女性→D
例:
♂→GGS
♀→GGD

S = Son → 息子
B = Brother → 兄弟 姉妹
C = Cousin → 従兄弟
G = Grandfather → 祖父
N = Nephew → 甥
R = Removed → 隔った。
D = Daughter → 娘

《親族と親等関係表》

（数字は親等数を示す）

伝道本部だより

一九六五年一月

バプテスマ

阿倍野
フジイ　カズオ
カトウ　セツコ
タツミ　ヒサコ

旭川
アリタ　カズオ

京都
ゴトウ　ミツコ
ヤマグチ　キヨミ

名古屋
イトウ　ヒトシ

新潟
オオシマ　ユタケ

西宮
ヨコタ　ミノル

岡町
バン　ノブコ

クナイ　トヨジ

三宮
ホリグチ　トモオ
イナガキ　マサコ
イナガキ　ミツエ
イノシタ　ケイ
オカダ　アキコ
サノ　クニオミ
シライシ　ミツコ

札幌
ハセガワ　アキラ
マルオ　コクロウ
イケダ　キシ
コマグチ　ヨシキ
キノシタ　シンイチ

東京中央
ミタニ　トシオ
オオイワ　ヤスユキ

東京北
ハギワラ　マサユキ
クマイ　カズオ
イノベ　マツヒサ
ミカワ　アサオ
サダマツ　ミチコ
タナベ　トミコ
タナベ　セツコ

横浜
トグチ　ノブコ
ヤマダ　ヒロシ

普天間
マエハラ　キミコ

那覇
キンジョウ　カズコ
キシバ　トモロ
ミヤギ　ソノエ
ナカタ　トモコ
タラマ　ブリコ

神権

阿倍野
サンノエ　マコト（祭）
ヨコイ　ショウジ（祭）
ワタナベ　ケンイチ（教）
タマノ　マキオ（執）

旭川
ヨコハマ　ユズル（執）
タカダ　セイジ（執）
ヤスダ　オサム（執）

福岡
ハラ　イクオ（執）
タダ　シゲタケ（執）

群馬
サマグチ　タモツ（教）

広島
ヒキノ　ヒロキ（祭）

金沢
オオハラ　マサシ（執）

甲府
スギハラ　タカノリ（執）
タケノ　カズマ（教）
カンダ　アキヒコ（教）

京都
カトウ　アキオ（執）
ヨシザワ　トシカズ（執）
オカモト　ショウヘイ（執）
マスダ　タケヒコ（教）

名古屋
カタヤマ　ヒロユキ（執）
シバタ　ヨシハル（執）
スギブチ　マモル（執）
サカシタ　ヨシミ（執）
カラキ　ツトム（執）
ツボウチ　ケンジ（祭）
オノ　ケイジ（祭）
ノグチ　トモヒサ（教）
シミズ　タカオ（執）
ヤギヌマ　シンジ（祭）

新潟
イトウ　マサトシ（教）

西宮
フジオカ　ユウスケ（執）
イマオカ　ヨウスケ（祭）
ニシダ　マサオ（祭）

岡町
イノハラ　ユキヒロ（教）
ツチヤ　トシオ（教）
シオミ　タカユキ（教）
ハヤシ　ムネミツ（教）
ミゾウチ　トシオ（祭）
イワマ　クニヨシ（祭）

イシイ　エイイチ（執）
トミオカ　トシテル（祭）
オノ　モトノリ（祭）
タナカ　リヨウイチ（祭）

岡山

タカバヤシ　タケオ（教）

三宮

ヤマノ　ヒロキ（教）
ヨコヤマ　ヨシカズ（長）
タルモト　マサヒロ（長）
タカハシ　シロウ（長）
アラキ　ノブカツ（長）
オカダ　タケヒコ（長）

札幌

タカクワ　ハルノブ（執）
スナハラ　ケイゾウ（執）
オオタ　マサカツ（執）
アワジ　ヒデオ（執）
シバタ　ノブオ（教）
ナカタ　カズヒコ（教）
カワイ　ヒデオ（祭）

仙台

キタムラ　リヨウヤ（執）

東京中央

オクダ　ミノル（祭）
ソノダ　ケンジ（教）
セキ　ヨシヒロ（教）
イシイ　ミノル（執）
シモダ　キヨシ（執）

東京東

サガワ　ヨシカツ（教）
ナカガワ　シゲル（教）
ワタナベ　ヤスヒロ（執）
タムラ　シユウジ（執）
カリノ　トシアキ（執）
ネギシ　アケオ（執）
ツカヤマ　セイコウ（執）

東京北

キクチ　キンスケ（祭）
ミヤサカ　モトヒロ（教）
サトウ　ヒロミ（教）
タカハシ　ヨシタカ（執）
シブヤ　ヒデオ（執）
オオツ　アキラ（執）
イワサキ　ミチアキ（執）
ツジタ　ユキオ（教）

東京西

ヨシダ　カンイチ（執）
キシノ　ヒロシ（祭）

編集後記

▽東京は桜の花が春雨によって無情にもその生命を短くして散ってしまった。代って若葉が人々の目を休ませてくれる程に生々としてきた。

五月は爽やかな躍動の時、聖徒の道も一層期待に答えたいと思うのだが……

▽聖徒の道への支部だよりが期限後に届くことが多い。今後新たに新任される兄弟、姉妹の方々、まず聖徒の道発展のために締切り日を守って下さい。

また聖徒の道はあなた方の努力によることもお忘れなく。

▽投稿される方のために

投稿は原稿用紙を使用のこと。

締切り日は毎月二十日。

投書には支部長会のサインを入れること。

写真（ネガは否）、カットを添えればなを可、詩、俳句、随筆、二分半など……

「聖徒の道」発展のために

4月14日に「聖徒の道」について決定したことをお知らせ致します。

組　織

○ 「聖徒の道」の投稿は港区青山北町6—34へ

○ 地方部評議員のなかから「聖徒の道」に関する責任者を選出する。

○ 支部「聖徒の道」委員は評議員の支持に従って投稿を期日（毎月20日）までに届くようにする。

○ 「聖徒の道」の販売関係の責任に当る。

○ 投稿は編集会議で決定する。

以上兄弟姉妹のご協力をお願いします。

English for May

I WONDER

If flies are flies
Because they fly
And fleas
Because they flee. . . .
I wonder then
If bees are bees
Just because they be?

FROM READ TO BOOK
by Ellen E. Morrison
(*Change only one letter at a time to work from* READ *to* BOOK *in this puzzle.*)

R	E	A	D
B	O	O	K

1. Not alive.
2. Beloved.
3. A forest animal.
4. One who gets something done.
5. An opening to walk through.
6. Not rich.
7. Small body of water; a pond.
8. An implement to work with.
9. Have taken.

SWINGING

by Margaret Russell Tate

Past leaves and branches, here I go,
Swinging high and swinging low.
Isn't this a happy way
To spend a lovely summer day!

why the TORTOISE carries his shell about

Once upon a time the word was passed that a big meeting of all the animals in the world was to be held. The tortoise decided to go.

At that time the tortoise did not carry his shell about with him, but used it only as a house. When he arrived at the meeting place, he found that there was nowhere for him to stay, and so he slept out in the cold and went home the next day.

Not long afterwards, another meeting was held, and this time the tortoise arrived very early and began looking for lodgings. First he went to the birds.

"We cannot have you staying with us," said the birds. "You certainly have a beak like us, but you have no feathers. You have a head like a snake; try the snakes' lodgings."

The tortoise did as he was told, but the snakes said, "We do not want you staying here. You have a head like us, but you have legs. Go away."

The poor tortoise went from one place to another, but was always turned away. No one wanted him, so he slept out in the cold again. When he arrived home, he promised himself that he would never, never be treated like that again, and he decided to take his house wherever he went.

Now he carries his shell everywhere. He has to walk more slowly, but he no longer has to sleep out in the cold when he goes visiting.

My name is Bobby Lee Macadoo,
There are many make believe things that I do.

Sometimes I'm a with a to ride,

I have and a and at my side.

I fight and bad and put them in

Sometimes I'm a delivering

I pretend I'm a after and ,

And sometimes I'm a doing tricks at the

At times I go sailing in a great big

Or I ride in a headed straight for the

I may be on a out at sea,

But sometimes I'm a who is plain Bobby Lee.

"WHEN PEOPLE ONCE BEGIN TO DEVIATE . . ."

RICHARD L. EVANS

Besides "broadmindedness" and "independence," of which we have spoken, there is another word that calls for comment: "When people once begin to deviate," said King George III, "they do not know where to stop."[1] And to this Lord Byron added: "Ah! to what gulfs a single deviation from the track of human duties leads!"[2] Deviation in personal decisions has the effect of setting standards aside. But apart from its effect on us there is always the question of the influence of our example on others: the example of parents on children, of teachers on youth, the influence of all whom young people look to for leadership or whom they much admire. Adults, parents, others, who have been reared with good teaching, good training, and whose fundamental foundations are somewhat firmly fixed, may, at some point, depart a little from their own principles, deviate from standards, relax a little in conduct, as they may call it, without being too much concerned. With them it is only a little lapse. But those who are young and impressionable, those who are watching and feeling their way along in life, see the example, the compromise, the temporary lapses, the deviation of those to whom they look for leadership, and may suppose that such letting down, such lapses don't matter too much. There is the oft-quoted question from Paul: "For if the trumpet give an uncertain sound, who shall prepare himself. . . ."[3] This becomes more and more pertinent as more and more young people are pondering the problems and looking for direction, for standards, for examples to follow, and then see a devious example, or hear an uncertain sound. If children can't follow parents, whom can they follow? If youth can't rely on the conduct of adults, on whose conduct can they rely? If they can't count on teachers or mature friends for a proper pattern, upon whom can they count? Example has a way of inducing others to go higher or to fall farther. "Deviation from either truth or duty," said Tryon Edwards, "is a downward path. . . ."[4] Any deviation from what we should be and what we should do cannot in good conscience be justified when others look to us for leadership. If others see us move in a devious direction, or if from us they hear an uncertain sound, whom *can* they count on?

[1]George III (1738-1820), King of England.
[2]Lord Byron (1788-1824), English poet.
[3]1 Cor. 14:8.
[4]Tryon Edwards (1809-94), American editor.

"The Spoken Word" from Temple Square, presented over KSL and the Columbia Broadcasting System, May 3, 1964. Copyright 1964.

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経　上質革製合本……1100円
教義と聖約
高価なる真珠　合本……300円
モルモン経（新訳）……300円
信仰箇条の研究……330円
モルモンとは？（新版）……150円
総合聖句の手引……150円
日本系図探究要覧……100円
アロン神権者用学科課程……150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用
「モルモン経の読み方の手引」……200円
ナザレのイエス……100円
正しい日本史……100円
家督権の祝福……100円
料理の作り方……50円
求道者教育法……120円
神の王国……230円
基督・イエス……300円

日曜学校用

モルモン経物語……150円
旧約聖書物語……150円
家族の昇栄……200円
福音の実践……200円
奇しきみわざ(上)(下)……200円
我等の標準聖典……200円
古代の使徒……150円
シオン山の救い手たち……200円
教義と聖約の教え……200円

MIA用

我ら指導者のことば……200円
我らは信じる……200円
我らは生きる（1965年度テキスト）……120円
我らは奉仕する……150円
生活の目標……150円
今日の十誡（1965年度テキスト）……250円
MIA・エンサイン・ローレルの手引……150円
演説が上手になる法……150円
素晴しき考え……200円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……400円
レクリェーション歌集……400円

……注文は各支部長へ……

THE SEITO NO MICHI
Volume 9, May 1965, Number 5
THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS
NORTHERN FAR EAST MISSION
TEL (473) 1613. 14 Azabuhiroo-cho Minato-ku Tokyo Japan

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）第九巻第五号　一九六五年五月号

支部所在地

北海道地方部

旭川　旭川市八条五丁目
MIA集会場　旭川公会堂
電話（二—一五四五）

室蘭　室蘭市幸町八九
電話（七〇五四）

小樽　小樽市富岡町一ノ三五
電話（二—八二二四）

札幌　札幌市北二条西二四丁目
電話（六三—七八六六）

東中央地方部

群馬　高崎市並榎町二七五

甲府　甲府市山田町六三

松本　松本市幸町三八四　百瀬方
電話（二—一六〇〇）

新潟　新潟市中大畑町五五七
電話（二—八六六〇）

仙台　仙台市光禅寺通り二八
電話（二五—〇八九七）

東京中央　東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇八—三三〇七）

東京北　東京都中野区江原町一ノ八ノ十四
電話（九五二）一五三一

東京東　東京都江戸川区小岩町六—七八〇
電話（六五七—五二二三）

東京南　東京都大田区南千束町二四九
電話（七二九—六三一一）

東京西　東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七
電話（二—六七六四）

山形　山形市七日町二丁目十二ノ二十三

横浜　横浜市港北区篠原町二九
電話（四九—八七七二）

西中央地方部

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
電話（六二一—八三二七）

福岡　福岡市浄水町四六
電話（五二—八六五三）

広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三
電話（三一—六一三五）

金沢　金沢市上胡桃町一一

京都　京都市左京区下鴨松原町四四

名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話（七三—四二一〇）

西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話（五—〇一四一）

岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八
電話（二—一二三六）

岡山　岡山市北方七〇

三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話（八六—二六〇二）

柳井　山口県柳井市今市三九一

佐世保　長崎県佐世保市山手町
TAIKEI HOUSE CO., LTD.

沖縄地方部

普天間　沖縄宜野湾市野嵩区三二八

那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

建築部事務所

東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇二—四〇一〇）

聖徒の道

1965年5月1日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ダワエン・N・アンダーセン
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町14　(473) 1613
印刷所　合名会社　三五堂

定価　八〇円